平成28年度
第45回全日本中学校特別活動研究会・東京大会

認め合い 支えあい 高め合う 仲間づくり

平成28年11月19日（土）
墨田区立本所中学校

全日本中学校特別活動研究会
東京都中学校特別活動研究会

第４５回　全日本中学校特別活動研究会

東　京　大　会

大　会　主　題

認め合い　支えあい　高め合う
仲間づくり

～これからの社会を生き抜く資質・能力の育成を目指す特別活動～

第４５回　全日本中学校特別活動研究会・東京大会

大　会　要　項

１　趣　旨　　全日本中学校特別活動研究会は、望ましい集団活動を通し，豊かな人間性や社会性の育成を目指した研究を推進して、４５回目の研究大会を迎えた。

今大会では、「認め合い　支え合い　高め合う　仲間づくり」～これからの社会を生き抜く資質・能力の育成を目指す特別活動～を大会主題とし、特別活動の在り方を追究する。

２　大会主題　　認め合い　支え合い　高め合う　仲間づくり
～これからの社会を生き抜く
資質・能力の育成を目指す特別活動～

３　期　日　　平成２８年１１月１９日（土）

４　主　催　　全日本中学校特別活動研究会　東京都中学校特別活動研究会

５　後　援　　文部科学省　　東京都教育委員会
墨田区教育委員会　　全日本中学校長会
東京都中学校長会　　東京都中学校教育研究会
日本特別活動学会

６　会　場　　東京都墨田区立本所中学校
〒130-0005　墨田区東駒形三丁目 1 番 10 号
銀座線・東武線「浅草駅」より徒歩 10 分
都営浅草線「本所吾妻橋駅」より徒歩 7 分

7　時程・内容

９：００	受付
９：３０～１２：３０	中学校生徒会長サミット（参観）
９：３０～１０：００	生徒会長サミット全体会参観
１０：１５～１０：４５	全体会開会式【体育館】
１０：４５～１２：３０	生徒会長サミット分科会参観
１２：３０～１３：３０	昼食・受付
	全国理事会【視聴覚教室】
１３：３０～１５：４５	分科会発表・研究協議・指導講評・講演
第１分科会〈学級活動Ａ〉	【会場：２－１教室】
第２分科会〈学級活動Ｂ〉	【会場：２－２教室】
第３分科会〈生徒会活動〉	【会場：２－３教室】
第４分科会〈学校行事〉	【会場：２－４教室】
１６：００～１６：３０	分科会ごとにまとめ・会場片付け

8　全体会式次第

平成２８年１１月１９日（土）　１０：１５～１０：４５

会場：東京都墨田区立本所中学校　体育館

(1) 開会のことば

(2) あいさつ

第 45 回全日本中学校特別活動研究会

東京大会実行委員長　長谷川晋也

全日本中学校特別活動研究会 会長　松本 康夫

(3) 祝辞

東京都教職員研修センター　研修部長　増淵 達夫　様

墨田区教育委員会教育長　加藤 裕之　様

(4) 来賓紹介

(5) 基調提案 東村山市立東村山第五中学校　吉川 滋之

(6) 次期開催県（佐賀県）あいさつ　中野 義文　様

(7) 閉会のことば

★研究発表

分科会	発表都県	発表内容	発表者
第１分科会 学級活動Ａ 会場　２－１	東京都	学級や学校の一員として一人一人が主体的に課題を把握して解決しようとする態度を育成する指導の工夫 ～自他を尊重する話合い活動を通して～	江東区立 深川第一中学校 主任教諭　大塚　隆弘 葛飾区立新小岩中学校 主幹教諭　瀬戸　完一
第２分科会 学級活動Ｂ 会場　２－２	埼玉県	生徒が生き生きと活動し、豊かな学級文化をつくる学級活動 ～小中のつながりを意識した学級活動（１）の実践を通して～	北本市立西中学校 教　諭　笹原　伸一
第３分科会 生徒会活動 会場　２－３	東京都	都中特活 「生徒会長サミットの歩み」	練馬区立 石神井東中学校 主幹教諭　藤本謙一郎
第４分科会 学校行事 会場　２－４	東京都	小中一貫校としての学校行事の開発	武蔵村山市立 小中一貫校村山学園 教　諭　尾崎菜穂登

指導助言者	運営委員（東京都）	
日本体育大学 教授 森島 昭伸　先生	会場責任者 司　会	江東区立有明中学校 主幹教諭　室井　裕勝
	記　録	足立区立第十中学校 教諭　鹿野天一朗
獨協大学 東京農業大学 非常勤講師 桑原 憲一　先生	会場責任者 司　会	足立区立新田中学校 教諭　有川　直志
	記　録	江戸川区立南葛西中学校 教諭　橋本　依恵
元東京農業大学 教授 現東京農業大学 非常勤講師 緑川 哲夫　先生	会場責任者 司　会	東村山市立東村山第五中学校 主幹教諭　吉川　滋之
	記　録	江戸川区立南葛西中学校 教諭　森本　貫介
東京女子体育大学 教授 美谷島 正義 先生	会場責任者 司　会	台東区立駒形中学校 主幹教諭　猪越　孝一
	記　録	中央区立晴海中学校 教諭　井村　友里

目　　次

1　あいさつ

全日本中学校特別活動研究会 会長・・・・・・・・・・・・・・・・・ 松本　康夫　7
第４５回全日本中学校特別活動研究会・東京大会 実行委員長・・ 長谷川晋也　8

2　お祝いの言葉

東京都教育長教育監
東京都教職員研修センター 所長 ・・・・・・・・・・・・・・・・・伊東　哲　様　9
墨田区教育委員会 教育長 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・加藤　裕之　様　10

3　基調提案

東村山市立東村山第五中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・吉川　滋之　11

4　研究発表

◇第１分科会（学級活動Ａ）　14
江東区立深川第一中学校　主任教諭　大塚　隆弘
葛飾区立新小岩中学校　主幹教諭　瀬戸　完一
学級や学校の一員として一人一人が主体的に課題を把握して解決しようとする態度を育成する指導の工夫
～自他を尊重する話合い活動を通して～

◇第２分科会（学級活動Ｂ）　23
埼玉県北本市立西中学校　教　諭　笹原　伸一
生徒が生き生きと活動し、豊かな学級文化をつくる学級活動
～小中のつながりを意識した学級活動（１）の実践を通して～

◇第３分科会（生徒会活動）　29
練馬区立石神井東中学校　主幹教諭　藤本謙一郎
東京都中学校特別活動研究会
「生徒会長サミットの歩み」

◇第４分科会（学校行事）　37
武蔵村山市立小中一貫校村山学園　教　諭　尾崎菜穂登
小中一貫校としての学校行事の開発

5　資料

・全日本中学校特別活動研究大会の歩み　40
・全日本中学校特別活動研究会会則　42
・全日本中学校特別活動研究会理事一覧　44
・第 45 回全日本中学校特別活動研究会・東京大会実行委員一覧　45

あいさつ

全日本中学校特別活動研究会
会長　松本　康夫
（東村山市立東村山第二中学校）

第４５回全日本中学校特別活動研究会を関係各位のご厚意とご尽力により、東京大会として開催できますことを心から感謝し、お礼申し上げます。本大会の開催にあたり、文部科学省、東京都教育委員会、墨田区教育委員会、東京都中学校長会、日本特別活動学会の皆様には温かいご理解・ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて現在、これからの時代に求められる資質・能力を踏まえて次期学習指導要領に向けての審議が進んでいます。その中で、これまでの特別活動における成果について、生徒が学校生活を送る上での基盤となる生きて働く力を育む活動として機能してきたこと、各活動等における望ましい集団活動を通じて、協働性や異質なものを認め合う土壌を育むなど、生活集団、学習集団として機能するための基盤を創ってきたことなどをあげています。そして、このことは全国学力・学習状況調査の質問調査において、「学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思う」と肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で平均正答率が高いことや、特別活動が海外からも我が国の教育課程の特徴として高い評価を受けていることなどにあらわれているとしています。

一方で課題としては、①育成を目指す資質・能力の視点から、身に付けるべき資質・能力は何なのか、それはどのような学習過程をへることによって向上するのかが意識されず指導が行われてきた実態が見られる。②学習指導要領における内容の示し方として、各活動等の関係性や意義、役割の整理が十分でないまま実践が行われてきたという実態が見られる。③複雑で変化の激しい社会の中で求められる能力を育成するという視点から、社会参画の意識の低さが課題となる中で、自治的能力を育むことがこれまで以上に求められている。また、キャリア教育を学校全体で進めていく中で特別活動の果たす役割が大きいこと、防災を含む安全教育や体験活動など、社会の要請の応えるために各教科等の学習と関連づけ特別活動において育成する資質・能力を示すことなどをあげています。

このような成果と課題を踏まえてこれからの特別活動のあるべき姿について、審議のまとめでは詳細な資料を提示しています。今後、こうした資料を読み込みながら、これからの時代を生き抜くために必要な資質・能力を育成できる特別活動を創りあげていかなくてはなりません。審議のまとめで示している特別活動における「見方・考え方」の３つの視点である「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」はこれまでも各活動等を通じて活動の柱としてきたところです。これから課題への対応をしていく上で、改善を図ることはもちろん必要ですが、これまで各学校で積み上げてきた伝統や成果を大切にしていきたいと思います。そのためにも全国の特別活動を愛する先生方が集まり、力を合わせていくことが大切だと思います。本大会で得られたことを、各地域で広げ大きな力として、時代を担う子供たちの育成に生かしていただければ幸いです。

本大会を迎えるにあたり、準備・運営にご尽力をくださいました大会実行委員会の皆さま並びに、本大会の発表者・指導助言をいただいた諸先生方、そして、ご理解・ご支援をいただきました全国理事の皆さま方のご厚情に感謝申し上げ、挨拶といたします。

第45回全日本中学校特別活動研究会・東京大会の開催にあたって

第４５回全日本中学校特別活動研究会
東京大会実行委員長　長谷川晋也
（墨田区立本所中学校）

第４５回全日本中学校特別活動研究会研究大会を，都内はもとより，全国各地から多くの先生方の御参加をいただき，おもてなしの地，東京・墨田区で開催できますことを心から感謝申し上げます。

また，本研究大会の開催に当たり，ご指導，ご支援賜りました文部科学省，日本特別活動学会，東京都教育委員会，墨田区教育委員会をはじめ，全日本中学校長会，東京都中学校長会，東京都中学校教育研究会等の関係各位に，心より厚くお礼を申し上げます。

さて，本研究大会は「認め合い　支え合い　高め会う　仲間づくり　－これからの社会を生き抜く資質・能力の育成を目指す特別活動－」を主題に据え，現代の社会的課題に向かって解決の努力ができる生徒の育成を目指す特別活動を探求します。

現指導要領の改訂の頃より，情報化，都市化，少子高齢化などの急速な社会状況の変化を背景に，生徒たちの生活体験の不足や人間関係の希薄化，集団のために働く意欲や生活上の諸問題を話し合って解決する力の不足，規範意識の低下などが顕著になってきていること。更に好ましい人間関係を築けないことや，望ましい集団活動を通した社会性の育成が不十分な状況も見られることなどが指摘されてきました。

裏を返せば，生徒たちの生活体験の不足や人間関係の希薄化を補い，話合いの中で諸問題を解決する力を身につけさせることや，更に望ましい集団活動を通して，好ましい人間関係を築く中で，規範意識の養成や社会性の育成を行うことが求められているわけです。これからの社会を生き抜くために必要な資質，能力として，これらの力を育成することが，これからの特別活動の使命ではないでしょうか。

本研究大会では，特別活動の特性「なすことによって学ぶ」に基づき，話合い活動の重要性や活動の連続性に着目し，生徒間の相互作用を生かしながら，更に多様な活動，多様な展開，工夫によってそのねらいの達成に近づいた事例が発表されます。各分科会では，講師の方のご指導，ご助言と共に，皆様の貴重な考察を重ねて，そのねらいの達成により近づけたらと考えています。皆様のご協力によって，更に実り多き大会になりますことを期待しております。

結びに当たり，本研究大会の講師をお引き受けいただいた，森嶋昭伸先生，緑川哲夫先生，美谷島正義先生，桑原憲一先生に心から感謝を申し上げます。そして発表をお引き受けくださいました多くの先生方，関係各位に心からお礼申し上げ，大会実行委員長の挨拶といたします。

祝　辞

東京都教育庁教育監
東京都教職員研修センター所長
伊　東　　哲

第45回全日本中学校特別活動研究会東京大会が、全国から多くの皆様をお迎えし、開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

はじめに、これまで本研究会が、中学校における特別活動の充実・発展に多大なる貢献をしてこられたことに敬意を表しますとともに、各都道府県の教育行政に深い御理解と御協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、中央教育審議会においては、次期学習指導要領の改訂に向けた審議が進められ、新しい時代に必要となる資質・能力を育成することや学習評価を充実させていくこと等が目指す方向性として示されました。

特別活動における学級活動や生徒会活動、学校行事は、望ましい集団活動を通じて行われるという特質があります。それぞれの活動を通じて互いに認め合い、協働性を育むなど、生活集団や学習集団の中で、生徒に集団への所属感、連帯感を育み、それが学級文化、学校文化の醸成につながる機能をもっています。このような特色をもつ特別活動は、我が国の教育課程の特徴として海外からも高い評価を受けているところです。

東京都教育委員会では、継続的な授業研究や協議を通して相互研さんを行う「東京教師道場」、教科等の内容や指導方法等を研究することを目的とした「教育研究員」などの事業を行っております。これらの事業では、中央教育審議会の審議の方向性も踏まえ、各教科等の指導内容・方法の充実に向けた研究・開発を進めています。

本大会で「『認め合い 支え合い 高め合う 仲間づくり』～これからの社会を生き抜く資質・能力の育成を目指す特別活動～」を大会主題として、実践的な研究を推進されることは、時宜を得た意義の深いものであります。本大会主題に基づく一つ一つの発表は、今後の特別活動の在り方の指標となるものであり、本大会に御参会の全ての先生方が、貴重な成果を共有し、各学校における特別活動のより一層の充実へとつなげていただくことを期待しております。

結びに、本大会の開催のために、御尽力いただきました皆様方に感謝申し上げますとともに、本大会の御成功と会員の皆様の御活躍、更なる貴研究会の御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝　辞

墨田区教育委員会
教育長　加藤　裕之

「第４５回全日本中学校特別活動研究会東京大会」が、墨田区で盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げますとともに、全国各地からお越しいただきました皆様には、区民を代表して歓迎申し上げます。

墨田区では、平成２８年の６月に、『墨田区教育施策大綱』を策定し、教育施策の基本方針を示しました。本大綱は、学校教育の分野に重点を置いて、本区の「目指す子どもの将来像」を設定し、それを実現するための「施策の方向性」を示しております。

本区の「目指す子どもの将来像」の一つに、「将来、社会で活躍し、地域に貢献できる自立した人」と定め、具体的な姿として、「自己肯定感を育みながら、まわりの人の立場や気持ちを思いやることができる人」とあります。このことは、本大会の研究主題でもあります「認め合い　支え合い　高め合う　仲間づくり」に通ずる理念であると感じております。

平成２８年８月に、新しい学習指導要領改訂の設計図として、文部科学省は「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ（案）」を示しました。そのまとめによりますと、次期学習指導要領改訂の基本方針として、「何を学ぶか」という指導内容の見直しにとどまらず、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」までを見据え、教育活動を実施する必要があるとあります。「どのように学ぶか」に着目して学びの質を高めていくためには、「学び」の本質として重要となる「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した「アクティブラーニング」の視点から、授業改善の取組を活性化していくことが必要となります。

特別活動は、望ましい集団活動を通じて行われるという特質があり、各活動及び学校行事を通じて、協働性や異質なものを認め合う土壌を育む効果が期待できます。特別活動における集団活動は、集団への所属感、連帯感を育み、それが学級文化、学校文化への醸成へとつながります。これからの時代を生き抜く子どもたちにとって、予測困難な課題に、多様な他者と協働して立ち向かう力が必要とされます。特別活動は、そうした人間関係形成、社会参画の基礎を学ぶ機会として、その役割はますます重要になっていくことでしょう。

ご参加の皆様におかれましては、日頃の研鑽の成果を発揮されますとともに、本日の大会が、研究を深める機会となること、また、子どもたちの「生きる力」の育成に寄与することを願っております。

結びにあたりまして、本研究大会の開催にご尽力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げるとともに、ご参会の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

◇基調提案

第 45 回
全日本中学校特別活動研究会　東京大会

大会主題
『認め合い　支え合い　高め合う　仲間づくり』
～これからの社会を生き抜く資質・能力の育成を目指す特別活動～

今や世界中が注目している、日本を代表とする教育活動のひとつである「特別活動」。特別活動における集団生活は、集団への所属感や連体感を育み、それが学級・学校文化の醸成へとつながり、各学校の特色ある教育活動の展開を可能としている。望ましい集団生活の中で､生徒の自主的･実践的な態度や自己を生かす能力の育成を目指す活動を学ぼうと、海外からも関心が集まり、高い評価を受けている。

青年前期にある中学生期は、自らの人格発達の基盤となるアイデンティティーの確立を目指し、学級・学校文化の創造に関わる活動や体験を通して、大きく成長・発達する時期だと考えられる。生徒一人一人の居場所となる学級や学校での毎日の生活は、集団活動を通した人間関係づくりに大きく左右されるからこそ、自分たちで創造する活動の喜びや成就感、集団での活動や話合いを通した自他の理解や他者との関わりなどを直接体得させるための魅力的な場でありたい。

学習指導要領において、各学校が教育活動を進めるにあたり求められているのは、生徒に「生きる力」を育むことである。社会が激しく変化する中で、自立と協働を図るための能動的・主体的な力である「社会を生き抜く力」の育成が求められている。

文部科学省の「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」によると、特別活動におけるこれまでの成果として､「学校生活を送る上で基盤となる力や社会で生きて働く力を育む活動として機能してきた」「望ましい集団生活を通して、協働性や異質なものを認め合う土壌を育むなど、生活・学習集団として機能するための基盤がつくられてきた」等、報告されている。また、更なる充実が期待される今後の課題として、「育成を目指す資質・能力の視点」「学習指導要領における内容の示し方の視点」「複雑で変化の激しい社会の中で求められる能力を育成するという視点」の３つの視点が強調されている。

そして現在、特別活動を含めた学校教育の目標・内容と指導方法、学習評価の在り方についての検討が国の検討課題として進みつつある。中央教育審議会の「初等中等教育における教育過程の基準等の在り方について（諮問）2014」では、「今後のアクティブ・ラーニングの具体的な在り方」「グローバル化する社会の中で、言語や文化が異なる人々と主体的に協働していくこと」「アクティブ・ラーニングなどの新たな学習・指導方法や、このような新しい学びに対応した教材や評価手法の今後の在り方」が検討対象となっている。

特別活動の主たる指導方法は､これまでもアクティブ･ラーニングであったといえるが、グローバル化する世界情勢の中では、個人の主体的な判断に基づく協働によって集団の行動が決定されるため、社会的資質（コンピテンシー）を中心とした「グローバルコンピテンス」育成の必要性がより高まってきている。社会的資質の育成の基盤となる生徒指導についても、特別活動との関連を強化する時期にきており、国際連合での活動では「平和と安全」「開発」「人道援助」「経済社会問題」などが中心的テーマとして設定されている。

ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）では、グローバル化と近代化により、多様化し、相互に

つながった世界において、全体的な人生の成功と正常に機能する社会の実現を高いレベルで達成する個人の特性を重視しており、「自律的に行動する能力」「社会的な異質の集団における交流能力」「社会的・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力」をキー・コンピテンシーとしている。

特別活動の取組の柱となる学級活動・生徒会活動・学校行事は、「新たな活動を創り出す力」「コミュニケーション力」「協働性」などを育む機会に長けている。また、エモーショナル・クオリティー（EQ：対人感情知覚）に含まれる「勇気」や「共感力」なども、特別活動の自主的・実践的な活動によって指導ができ、望ましい集団活動を通して行われる特別活動が、21 世紀における社会的資質を育むことに適した指導につながっているといえる。時代の変化に伴い、考えや価値観がますます多様化する現在、子供達が社会の変化に対応できる力を高め、社会的に自立でき、次代を担う存在として大きく成長していける上でも、特別活動の果たす役割は大きい。

本研究会は、長年にわたり進めてきた「豊かな人間関係づくり」をもとに、平成 24 年に行われた第 41 回東京大会までの実践を踏まえながら、「認め合い　支え合い　高め合う仲間づくり　～これからの社会を生き抜く資質・能力の育成を目指す特別活動～」と主題を設定し、望ましい人間関係を築くための新たな特別活動の展開を目指すこととした。

本研究大会では、前半に「生徒会長サミット」（全体会・分科会）、後半は学級活動・生徒会活動・学校行事の各内容の研究発表と研究協議を行う。生徒会長サミットは、「学校文化」「特色ある教育活動」の交流の場であり、各校で積み上げてきたものを自校から東京全体に発信し、それが他校でさらに進化して新しいものを創りだす等、新しい価値の創造に貢献してきた。東京都中学校特別活動研究会が中心となり、平成 14 年から現在まで継続して実施されてきた取組である。いじめ問題が大きく取り上げられた時期は、東京都教育委員会と共催して行われたこともあり、「いじめ防止フォーラム」として開催された。いじめ防止のために何ができるかを考え、いじめ撲滅に関する大会宣言を採択した。中学校だけでなく、小学校児童会、高等学校生徒会による実践発表も行われた。毎年、各校の実践はとても工夫の凝らされたものばかりで、参加した教職員、保護者、都民にとって大きな刺激となるサミットとなっている。

本研究大会の生徒会長サミットでは、大会主題をもとに特色ある生徒会活動の実践報告に学び、他校との情報交換を通して生徒同士に広く交流の場をもたせていく。リーダーとしての資質や態度を育み、各校の生徒会活動の充実、発展を図る機会としたい。そのため、全体会に加えて分科会における情報交換をより時間をかけて行うことにしていく。生徒達の生き生きとした活動の様子を参観していただきたい。特に近年では、SNS 利用のマナーやルール、いじめへの対応、環境・防災への関わり等がサミットの中でも話題になり、各校に持ち帰り、実践する学校も増えてきている。また、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、教育推進校での国際交流・自国文化や異文化理解への特別活動の取組も進んでおり、生徒同士の活発な意見交換の中でも話題にのぼることを期待したい。

大会主題にある「認め合い　支え合い　高め合う　仲間づくり　～これからの社会を生き抜く資質・能力の育成を目指す特別活動～」に迫った研究成果を、皆様と達成できるようにご協力を願う次第である。集団や社会の一員として、「なすことによって学ぶ」活動を通して、具体的に学校で何をしたらよいか研究・検討し、有意義な実践につなげていくことを祈念する。教職員が一丸となった指導により、生徒一人一人が輝いていくのだということを再確認し、特別活動のさらなる発展を目指していきたい。

研　究　発　表

第１分科会（学級活動 A）

「学級や学校の一員として一人一人が主体的に課題を
　　把握して解決しようとする態度を育成する指導の工夫」

～自他を尊重する話合い活動を通して～

江東区立深川第一中学校　　主任教諭　大塚　隆弘
葛飾区立新小岩中学校　　主幹教諭　瀬戸　完一

第２分科会（学級活動 B）

「生徒が生き生きと活動し、豊かな学級文化をつくる学級活動」

～小中のつながりを意識した学級活動（１）の実践を通して～

埼玉県北本市立西中学校　　教　諭　　笹原　伸一

第３分科会（生徒会活動）

東京都中学校特別活動研究会

「生徒会長サミットの歩み」

練馬区立石神井東中学校　　主幹教諭　藤本謙一郎

第４分科会（学校行事）

小中一貫校としての学校行事の開発

武蔵村山市立小中一貫校村山学園　教　諭　尾崎菜穂登

第１分科会　学級活動

学級や学校の一員として一人一人が主体的に課題を把握して解決しようとする態度を育成する指導の工夫

～自他を尊重する話合い活動を通して～

江東区立深川第一中学校　主任教諭　大塚 隆弘
葛飾区立新小岩中学校　　主幹教諭　瀬戸 完一

１　研究主題設定の理由

情報化、都市化、少子高齢化などの社会状況の変化を背景に生活体験の不足や人間関係の希薄化、集団のために働く意欲や生活上の諸問題を話し合って解決する力の不足、規範意識の低下などが顕著になっており、好ましい人間関係を築けないことや、望ましい集団活動を通した社会性の育成が不十分な状況も見られる。

平成２０年１月の中央審議会の答申において上記のことが特別活動の課題として示された。また教育課程の基準の改善の狙いが示されるとともに、各教科等別の主な改善事項を示されている。特別活動が、よりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動であることをより一層明確にするため、目標に「人間関係」を加えた。このことにより集団や社会の一員として、協力して学校生活の充実と発展に主体的にかかわる教育活動としての意義を明確にした。（中学校学習指導要領解説　特別活動編）

特別活動の目標でもある「望ましい人間関係」を築くためには、生徒一人一人が集団の一員としての自覚と責任に基づき、学級や学校におけるよりより生活づくりに参画し、学級や学校生活にかかわる諸問題や課題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育成することが必要である。生徒は学校生活の中で様々な集団に所属して人間関係を築いているが、特に学級活動は、生徒の学校における基礎的な生活単位ともいうべき学級集団を基盤として行われる活動であり、学校生活の全般にかかわる事柄を扱う、特別活動の内容の中で中心的な役割を果たすものである。

そこで本研究においては、学級集団での「話合い活動」に視点を当てる。生徒一人一人が自他を尊重し、互いを認め合う学級での「話合い活動」の充実を図ることにより、自他が個性を発揮し、相互に認め合い、協力して共に生きる中で豊かな人間関係を築いていこうとする態度、当面する課題に主体的に関わろうとする態度、よりより生活づくりに参画する態度や能力を養うことができるのではないかと考えた。「話合い活動」を通し、よりよい人間関係を築く力、協力して学級や学校生活の充実向上を図るとともに、生徒一人一人が当面する課題を把握し、主体的に関わる態度の育成を重視した。よい人間関係を築く力、自己の所属する様々な集団に所属感や連帯感をもち、集団生活や社会の向上のために進んで力を尽くそうとする態度を養うことにより「望ましい人間関係」を形成できるのではないかと考えた。

以上の内容から、今年度教育研究員中学校特別活動部会では、研究主題を「学級や学校の一員として一人一人が主体的に課題を把握して解決しようとする態度を育成する指導の工夫～自他を尊重する話合い活動を通して～」と設定した。

研究構想図

特別活動の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

生徒の実態

・自治的能力、自主的に活動する力が充分でない。
・集団の中での表現力が充分でない。
・他者への評価が高い。
・自己肯定感が低く、自分に自信のない生徒が多い。
・集団の一員としての自覚が低い。
・人間関係に対する不安感が強い。
・指示をされた事柄には取り組む。
・規範意識が低下している。

身に付けさせたい力　目指す生徒像

・自他を尊重して、豊かな人間関係を築くことができる生徒
・主体的に課題を発見し、協力して解決に取り組む生徒

研究主題

学級や学校の一員として一人ひとりが主体的に課題を把握して解決しようとする態度を育成する指導の工夫　～自他を尊重する話合い活動を通して～

研究仮説

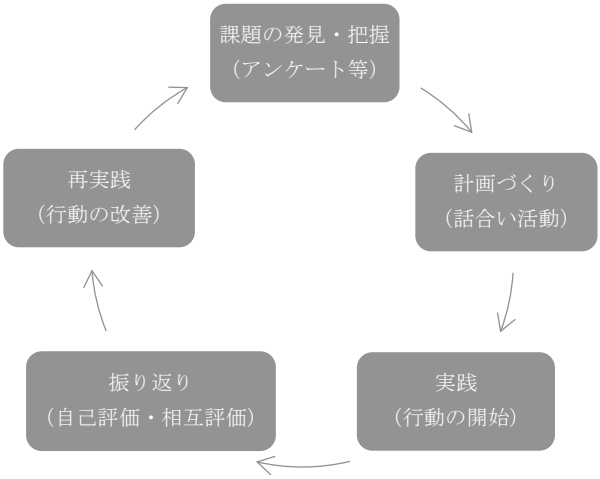
生徒一人一人が、学級での役割と課題を認識し、自他を尊重する話合い活動を工夫すれば、よりよい集団づくりへの意識が高まり、主体的に課題にかかわる態度が身に付くだろう。

２　仮説を検証するための視点

（１）ＲＰＤＣＡサイクルに基づいた学級活動を行う

主体的に課題にかかわる態度を育成するためには、課題を自己や集団の課題として認識することが第一段階（Research）である。アンケートや班長会、学級委員会を通して、課題の発見・把握をし、その後、課題解決のための計画づくり（Plan）をする。話合い活動を通して、集団決定・自己決定をすることが、主体性の育成につながる。自分たち（自分）で決めたことを普段の生活の中で実践（Do）し、振り返り（Check）、再実践（Action）すること、また、この流れ（サイクル）を繰り返すことで、主体的に課題にかかわる態度が身に付く。

ＲＰＤＣＡに基づいた学級活動		具体的な生徒の活動
R	**課題の発見・把握**	アンケート等
P	課題解決のための**計画づくり**	話合い活動
D	計画に基づいた**実践**	行動の開始
C	実践の**振り返り**	自己評価・相互評価
A	振り返りを生かした**再実践**	行動の改善



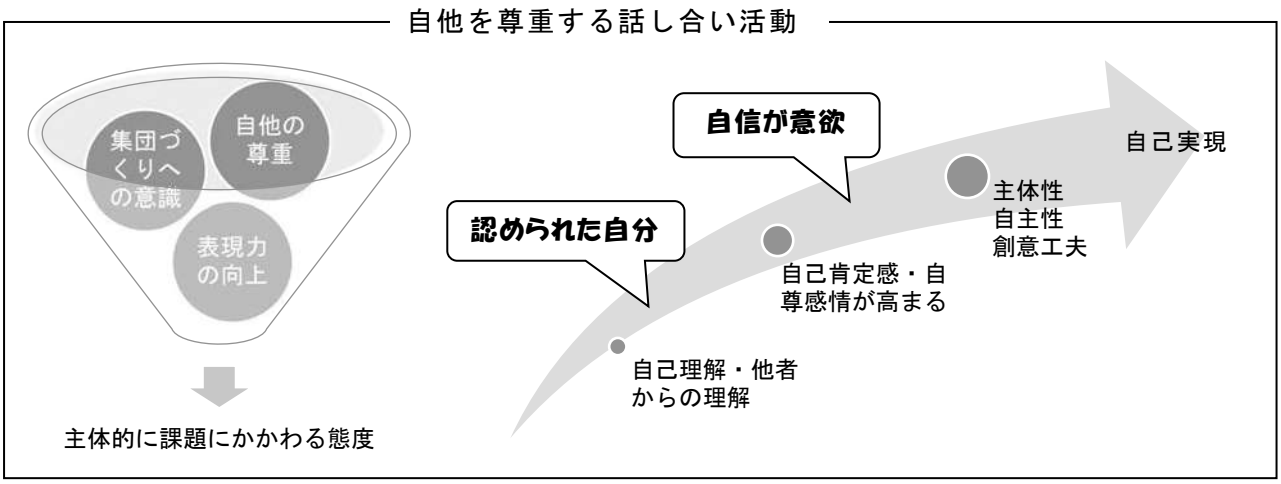
（２）話合い活動を工夫する

主体的に課題にかかわる態度を育成するためには、①よりよい集団、よりよい人間関係を築いていこうとする意識（**集団づくりへの意識**）を高めること、②自分に自信を持ち、他者を尊重し（**自他の尊重**）、その中で自分の役割と課題を認識し、行動すること、③自分の考えを表現する力を身に付け（**表現力の向上**）、他者と協力しながら課題にかかわることが大切である。この三つの要素を満たす活動が、話合い活動であり、話合い活動を工夫すること（ワールドカフェ、エンカウンター、ダイヤモンドランキング等）で、主体的に課題にかかわる態度が身に付く。

ワールド・カフェとは

ワールド・カフェ（自由な雰囲気をつくり小グループの席替えをしながら話し合う手法）を用いて生徒が臆することなく意見を発表し合い、多様な価値の理解から望ましい人間関係の構築につなげます。ワールド・カフェでは、話合いのグループ編成は４人～５人が妥当とされています。

「学級・学校文化を創る特別活動中学校編」　平成 26 年 6 月　文部科学省　国立教育政策研究所教育課程研究センター



（３）生徒による評価方法を工夫する

主体的に課題にかかわる態度を育成するためには、前述のようなＲＰＤＣＡサイクルに基づいた学級活動を行うこと、話合い活動を工夫することが重要である。しかし、それらの活動を通して、生徒自身が自他を振り返り、日常生活につなげていくことが、本当の意味での“主体性の向上”であると考える。下記のような評価方法の工夫をすることによって、より主体的に課題にかかわる態度が身に付く（日常生活への意識が高まる）と考える。

３　研究の内容

（１）検証授業１

①　題材　　「学校生活を充実させよう」（第３学年）

(ｱ)　課題「学校生活を充実させよう」

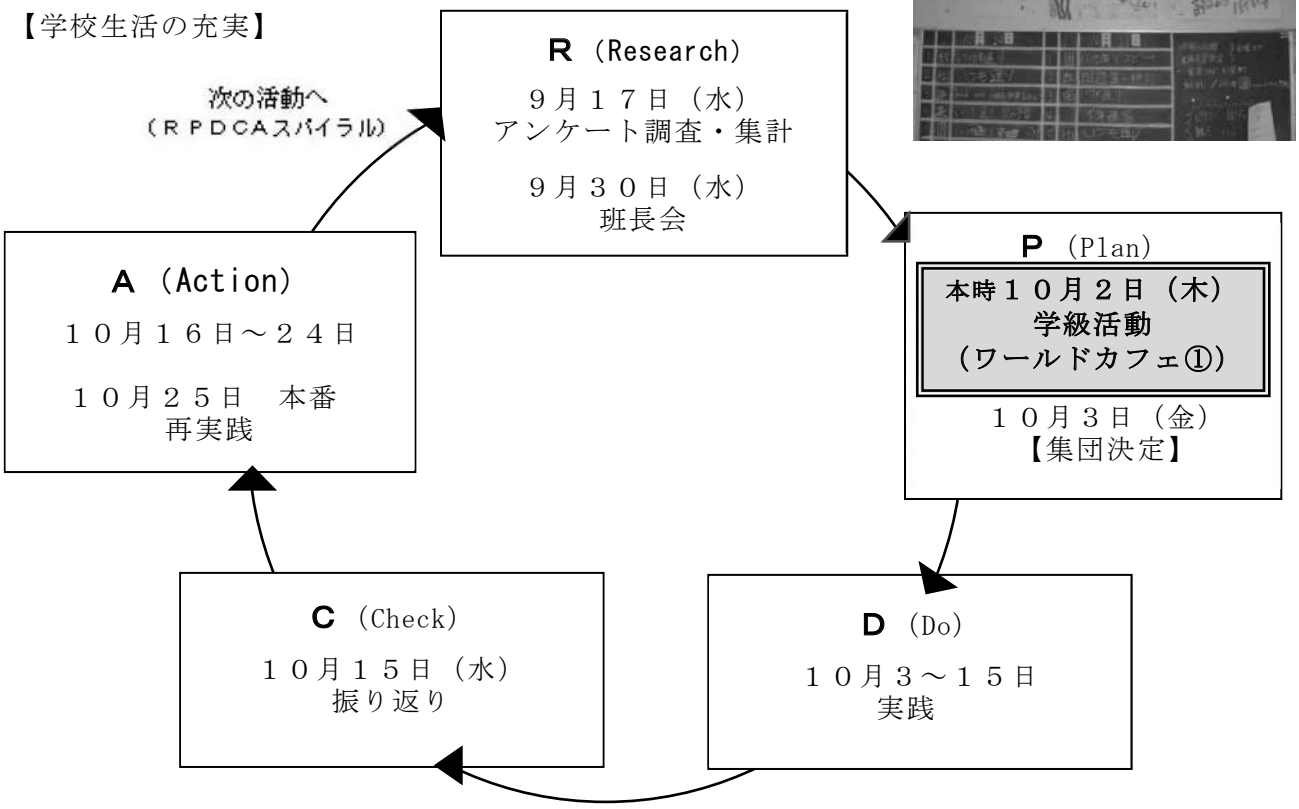
(ｲ)　本時のねらい

○合唱コンクールに向けた学級の取り組みに関心をもち、互いの考えを生かし、練習の仕方やクラスとしての取り組みの合意形成を図る。

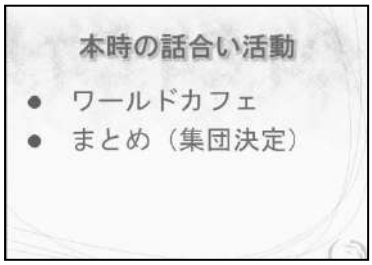
○卒業遠足に向けて関心をもち、課題に対して建設的に解決しようとする。

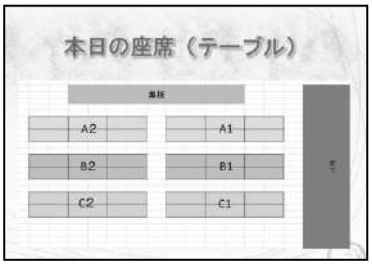
○学級の一員として、互いのよさを認め合いながら、学級での所属感を高める。

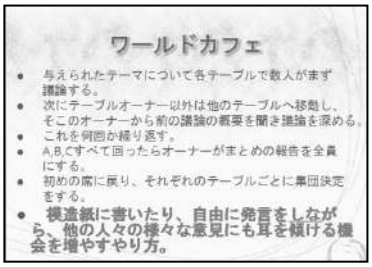
(ｳ)事前・本時・事後の活動の図式化（ＲＰＤＣＡサイクル）

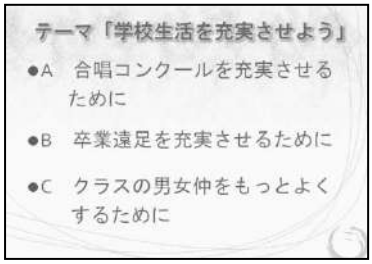


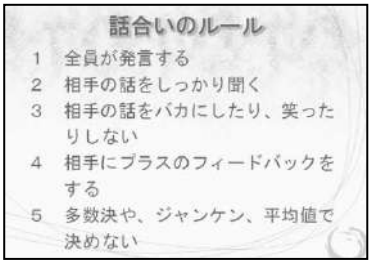
② 資料











（２）検証授業２

① 題材　　「学校生活を充実させよう」（第２学年）

(ｱ) 課題「合唱コンクール」

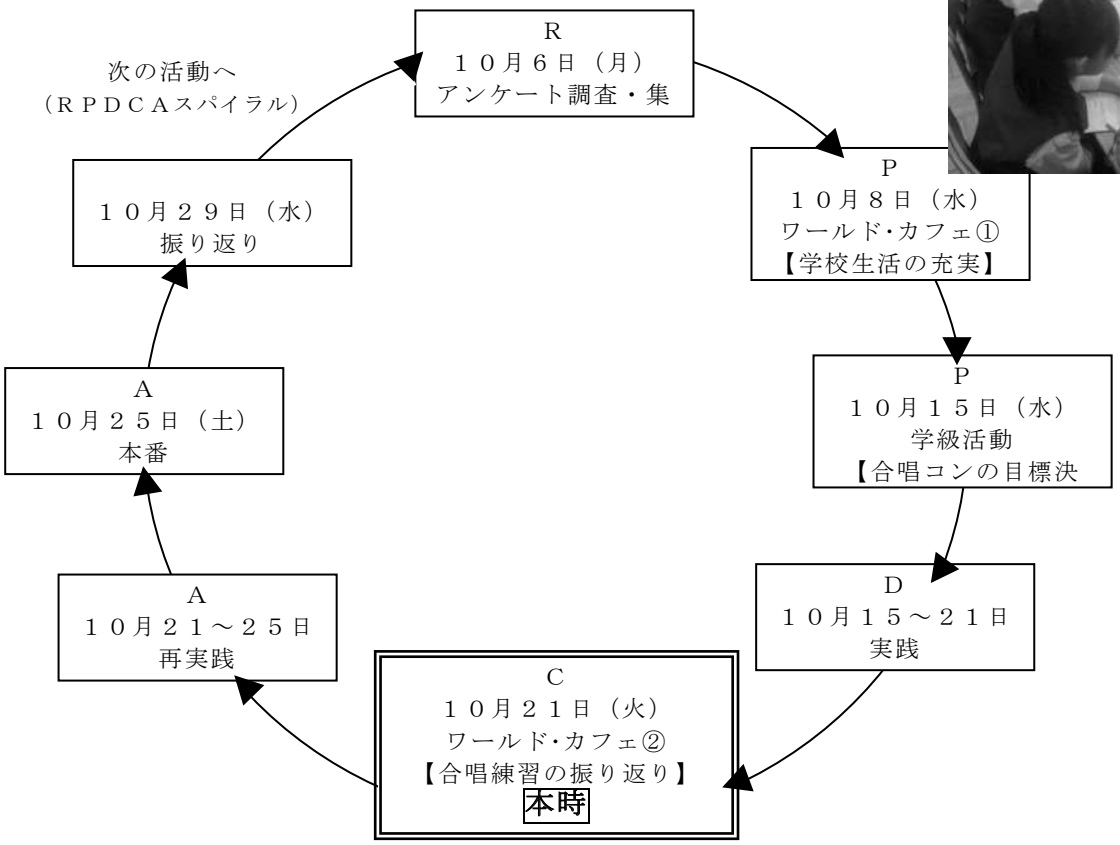
(ｲ) 本時のねらい

○合唱コンクールに向けた今までの取り組みを振り返り、互いの考えを生かしながら、課題と今後の目標についての合意形成を図る。

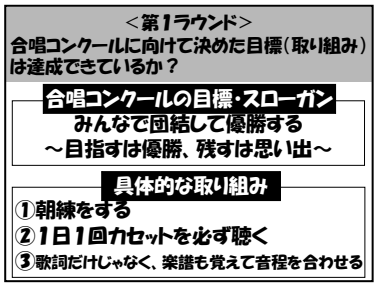
○学級の一員としての自覚を深め、互いに協力する態度を育てる。

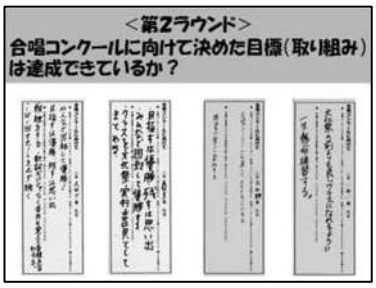
○学級や学校での所属感や責任感を高める。

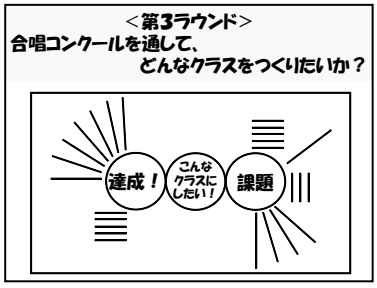
(ｳ) 事前・本時・事後の活動の図式化（ＲＰＤＣＡサイクル）

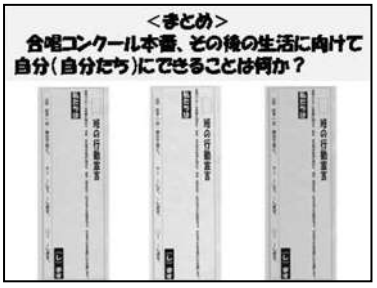


② 資料









（３）研究発表

① 題材　　「学校生活を充実させよう」（第２学年）

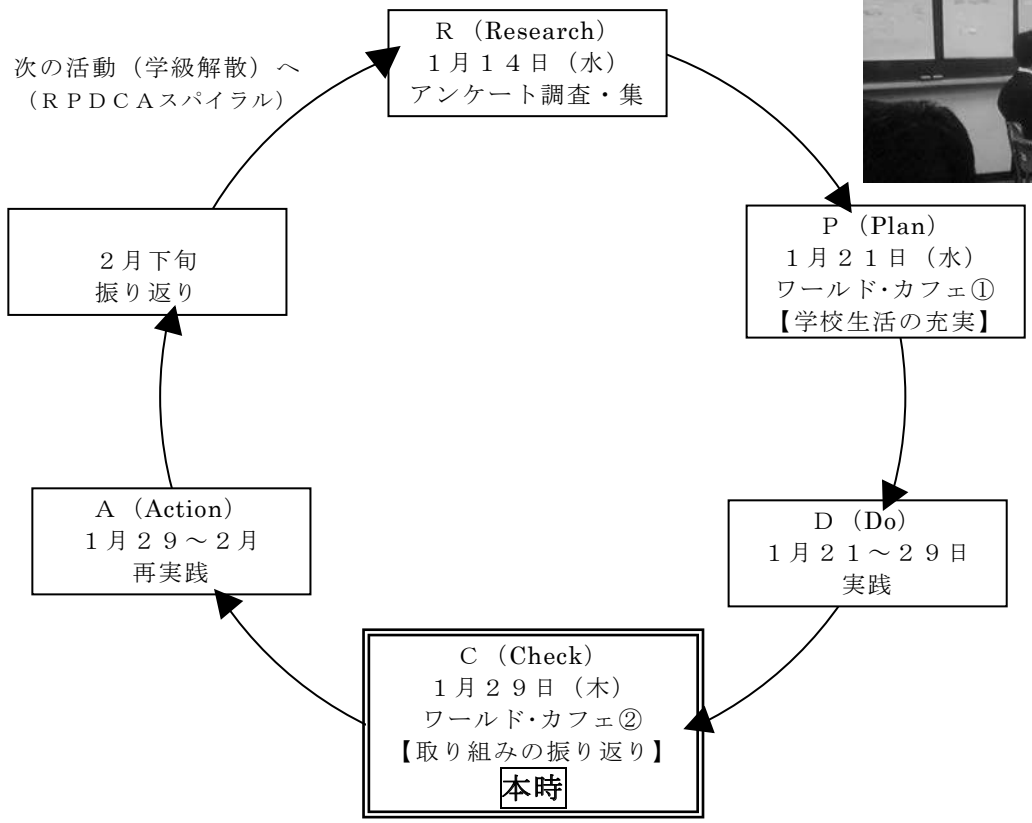
(ｱ) 課題「学級解散・最上級生に向けて」

(ｲ) 本時のねらい

○学級や学校の一員として一人ひとりが、主体的に課題を把握し解決しようとする態度を育成する。

○互いのよさを認め、支え合いながら協力して実践する態度を育成する。

(ｳ)事前・本時・事後の活動の図式化（ＲＰＤＣＡサイクル）



② 事前の指導について

(ｱ) １月１４日（水）アンケート調査【ワークシート】

いよいよ新年になり、３年生（最上級生）の準備期間がスタートしました。２年生として（このＡ組で）過ごす日々も、残り３ヶ月です。この３ヶ月を楽しく、目標をもって、クラスも自分も成長できる３ヶ月間にして欲しい、「このクラスで良かった」と全員が思える学級解散の日を迎えて欲しいと願っています。クラスで話し合い（ワールド・カフェを行い）、目標を決め、充実した３ヶ月間を過ごしましょう。

＜学級解散に向けて～どうすれば“このクラスで良かった”という思いで、“全員”が最上級生になれるか～＞

○目標を決めよう（話し合いたいテーマは？）→＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※例：球技大会を成功させたい、最後のテストの結果を良くしたい、最高の学級解散を迎えたい
：３年になるに当たって委員会や係活動を充実させたい、学級目標を達成したい

○目標を決める（話し合う）時のオーナー　→立候補（する・しない）　推薦（　　）

２年Ａ組＿＿＿番　名前＿＿＿＿＿＿＿＿

(ｲ) １月１４日（水）実行委員による事前の話合い【ワークシート】

＜ワールド・カフェ　事前準備＞

１．メンバー

（ 司　会 ）学級委員

（オーナー）各班１人（合計６人）

２．目的

「学級解散・最上級生に向けて～どうすれば“このクラスで良かった”という思いで、“全員”が最上級生になれるか？」をテーマに、なりうる最高の学級・自分を目指す。

３．今後の流れ

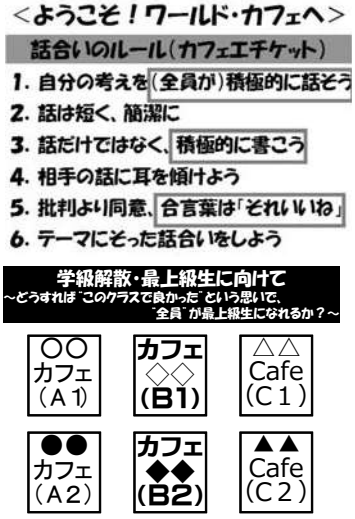
①１月１９日（月）【 放課後 】メンバー同士で話し合い　　学級解散まで４６日

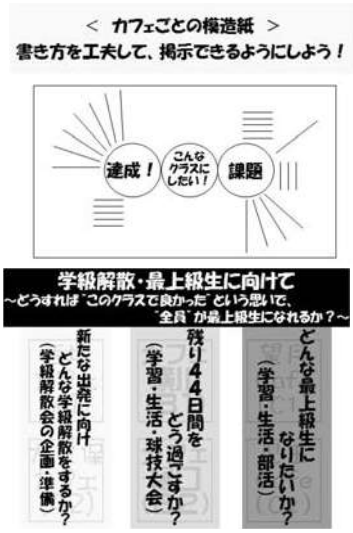
②　　２１日（水）【５時間目】ワールド・カフェ１回目　　学級解散まで４４日

反省・振り返り

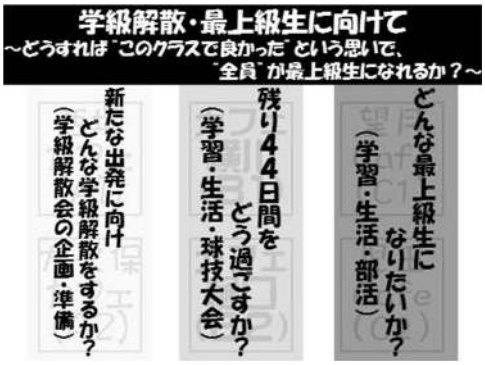
③　　２９日（木）【５時間目】　　〃　　２回目　　学級解散まで３８日

４．ワールド・カフェについて（流れ・カフェエチケット・模造紙・座席・話し合うテーマ）



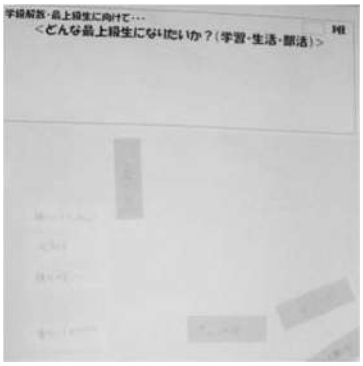


(ｳ) １月２１日（水）ワールド･カフェ①【学校生活の充実：３つのテーマについて話合い】



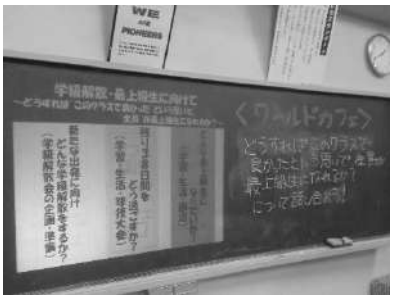
パワーポイントによる説明

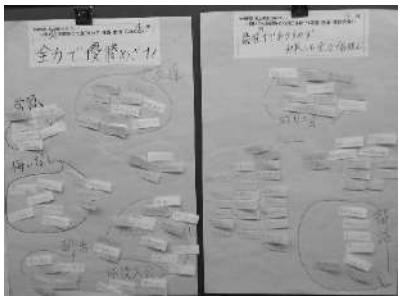
授業の様子



模造紙（付箋を使用）

③　本時の指導について：１月２９日（木）ワールド･カフェ②【集団決定・自己決定】





各班でまとめ、集団決定した内容

○１班　「どんな最上級生になりたいか？（学習・生活・部活）」

↓

当たり前のことをしっかりやり、受験生として部活や勉強を一生懸命やる！！

○２班　「どんな最上級生になりたいか？（学習・生活・部活）」

↓

誰とでも仲良くできて､頼れる最上級生　そのために､自分から積極的に話しかけ、やるときはやる。

○３班　「３８日間をどう過ごすか？（学校・生活・球技大会）」

↓

最後まであきらめず、何事にも全力で取り組む

○４班　「３８日間をどう過ごすか？（学校・生活・球技大会）」

↓

全力で、優勝を目指す！

○５班　「新たな出発に向けて、どんな学級解散をするのか？」

↓

最上級生に向けて準備をしながらイベントなどを通して、いい学級解散を迎える

○６班　「新たな出発に向けて、どんな学級解散をするのか？」

↓

２Ａ　Ｆｏｒｅｖｅｒ　～忘れられぬクラスを～

４　研究の成果と今後の課題

本研究は「学級や学校の一員として一人一人が主体的に課題を把握して解決しようとする態度を育成する指導の工夫～自他を尊重する話合い活動を通して～」を研究主題と設定し、「生徒一人一人が、学級での役割と課題を認識し、自他を尊重する話合い活動を工夫すれば、よりよい集団づくりへの意識が高まり、主体的に課題にかかわる態度が身に付くだろう。」という研究仮説に基づき、ワールド・カフェを用いた話合い活動を中心としたものである。本研究の成果と今後の課題は以下の通りである。

（１）研究の成果

RPDCA サイクルに基づいた学級活動を行うことにより、目的意識、課題意識を明確にし、継続して解決に実践しようとする意欲が高まった。ワールド・カフェの手法を用いる話合い活動では意見の共有、意思の疎通がしやすく、話合いが活発に行われた。他者の意見を理解し、自分の考えを深め、お互いの意見を尊重し合いながら集団決定をしたことで、主体的に課題解決に取り組もうとする意識が向上し、新たな活動へとつながりをもたせることができた。

① 望ましい人間関係の向上（自他の尊重）。
② 主体的に課題解決に取り組もうとする意識の向上。
③ 生徒の積極的な話合い活動への参加。（表現力の向上）
④ RPDCA サイクルに基づいた「実践」「振り返り」による日常生活の行動改善。

（２）今後の課題

研究の仮説に迫るための具体的な手だてとして３つの視点に沿って検証を行ってきたが、それぞれの視点における手だてについての考察をさらに深める必要がある。

① 計画的、組織的な RPDCA サイクルに基づいた学級活動の継続。
② 話合い活動（ワールド・カフェ）における適切な課題の設定。
③ 生徒の自発的、自治的活動の効果的な展開への教師の適切な助言。

学級活動にワールド・カフェを取り入れた話合い活動を継続的に取り入れていくことで互いの考えを深め、課題を解決していく授業実践を指導事例集などにまとめるなど、年間指導計画の改善・充実を図ることが必要である。また学級活動での話合い活動は１単位時間の活動時間内にとどまらず、学校生活のあらゆる場面で行う必要がある。日々継続して生徒の意見や気付きを RPDCA サイクルで実践していく手だてと工夫が必要である。特別活動においては、「体験あって学びなし」ではなく、教員の適切な指導が行われる集団の中で「なすことによって学ぶ」という実践活動を規律ある日常の生活の中で継続していくことが大切である。

第２分科会　学級活動Ｂ

生徒が生き生きと活動し、豊かな学級文化をつくる学級活動

～小中のつながりを意識した学級活動（１）の実践を通して～

埼玉県北本市立西中学校　教諭　笹原　伸一

１　主題設定の理由

「明日も学校に行きたい」。明日への思いを馳せる生徒は、学校や学級に希望を抱いている。そんな学校や学級には生き生きと活動する子供たちの姿があり、笑顔にあふれ、望ましい人間関係の中で生活している。それはまさに、学校の原風景であるといえる。また、教育の場における文化とは、教育活動を通して、教師の適切な指導の下、子供たちの手によって時間をかけて創り出される生活や行動の在り方の総体であると考える。学級での話合い活動により、子供の手によって創り出された豊かな学級文化は、学級への愛着を高め、愛校心をはぐくむことにもつながる。

また、中学校入学当初は、期待と不安の入り混じった中で生活する生徒が多い。その原因として考えられるのは、人間関係のつまずきや環境の変化などである。それが不登校の増加にも影響していると考えられる。中学校１年生の担任として、年度当初の学級活動を基盤にした学級経営に重点をおき、小学校で経験した話合い活動を中学校で生かしていくことが、豊かな学級文化をつくり、生徒が生き生きと活動する姿につながると考えている。中でも、自治的能力をはぐくむことをねらいとする学級活動（１）の実践を基盤にしたいと考え、本主題を設定した。

２　実践の概要（中学１年生）

（１）年度当初の学級活動を中核においた学級経営

①「出会い」づくり

この「出会い」は、学校、教師、友達との３つの「出会い」である。この３つの「出会い」を演出することで、生徒が中学校生活への期待を感じ、「楽しい１年間になりそうだ」という思いを抱けるように工夫をした。

ア　学校との出会い

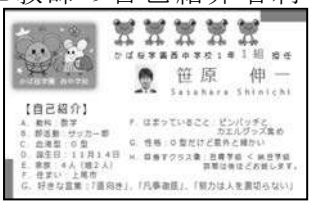
昇降口から教室へ向かう廊下に、生徒会執行部による装飾や花を飾り、教室に入ると黒板にはお祝いのメッセージや花で彩り、あたたかい雰囲気を出せるように工夫した。また、生徒の机には名札や学級通信などをおいた。

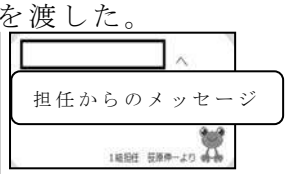
黒板にお祝いのメッセージ

イ　教師との出会い

登校する生徒を教室で出迎え、呼名時に教師の自己紹介名刺を渡した。

（自己紹介名刺…教師の自己紹介の他に、小学校の要録を参考に、生徒一人一人のよさを添えた工夫をした。）





自己紹介名刺

ウ　友達との出会い

初日は隣同士で自己紹介を行い、後日、学級で自己紹介を行った。

②「理想・めあて」づくり

入学式・始業式後、数日のうちに「理想・めあてづくり」の段階に入る。いずれの学年でも、新しい学年に進級すると、生徒は、これからの１年間がどのような学校生活になるか、担任はどのような方針で学級経営をしてくれるかなど、期待と不安がある。特に、中学校入学直後には大きな不安感をもっている生徒は多い。

そこで、年間指導計画に設定されている題材「中学１年生になって」の授業を行った。これは学級活動（２）「ア　思春期の不安や悩みとその解決」に関する指導である。

ア　指導案（略案と本時までの取組）

第１学年１組　学級活動指導案（略案）

指導者　1年1組　笹原　伸一

1　題材「中学1年生になって」　（2）適応と成長及び健康安全

ア　思春期の不安や悩みとその解決　　オ　望ましい人間関係の確立

2　本時のねらい

新しい中学校生活への不安を解消し、新たな学習や学校生活への期待感を高め、生徒一人一人がめあてをもってその実現に意欲的に取り組む態度を育てる。

3　展開

学習活動		指導上の留意点	資料等
1「中学生になって」アンケートの結果について話し合う。 つかむ 学級成員共通の問題を自分の問題として受け止める。【問題の把握・意識化】	・楽しみな（期待している）こと ・新しい友だちができる ・部活動が始まる ・宿泊学習がある ・体育祭等の学校行事がある ・心配（不安）なこと ・先輩との関係 ・学習についていけるか ・友だち関係 ・部活動について ・生活面（校則、先生）	・アンケートの集計資料から、生徒の期待と不安の気持ちについて考えさせる。 ・資料を通じて、自分の問題としてだけではなく、全員の共通の問題として気づかせ、意欲を高める。	集計資料
2「中学校の学習や学校生活」とはどのようなものかを話し合う。 さぐる 問題の分析をする。【原因の追究】 3「理想の学校生活」を目指すにはどうしたらよいかを話し合う。 見付ける 課題解決の方法、実践への手立てなど集団思考を深める活動に取り組む。【解決策】	・小学校と中学校との違い ・授業時間が５０分 ・各教科の特徴（教科担任制等） ・学校行事　・部活（先輩後輩） ・校則　等 ・楽しみなことや努力しなければならないことに何があるかを話し合う。 ・（学級会オリエンテーション） ・学級会のねらい ・進め方 ・望ましい議題 ・学級活動委員会の組織　等 ・学級経営上の方針を知る。（家庭学習や教育相談について）	・学年の学習や学校行事などの特色を踏まえ、関心と期待感をもたせる。 ・新しく始まる中学校生活に前向きに取り組めるように、楽しみなことや努力しなければならないことに目を向けさせる。 ・学級教育目標を再確認する。（安心感や期待感を高めるようにする） ・仲間と協力し、助け合い（学び合い）、自分たちで前向きに取り組むこの大切さに気づかせる。 ・学級会での役割や意義などについて、小学校の経験を踏まえ、学級会への実践意欲を高める。	指導事項の短冊 年間行事予定表 映像・メッセージ等 オリエンテーション資料
4「自分のめあて」（個人の努力目標）を設定する。 決める 生徒一人一人の努力していく目標を決める。【自己決定】 5「教師の話」を聞く	「学習」・「生活」・「運動」・「○○」について、自分の努力目標を自己決定する。	・具体的で前向きな目標（高みの自分を目指す）になるように助言する。 ・目標実現への取組に努力していくことや、時には、仲間と協力していく必要性を助言する。	めあてカード

○学級教育目標の設定

本授業の前に、生徒や保護者の思いや願いを知るため、アンケート調査を行った。

そこに教師の思いや願いを込めて学級教育目標を設定し、事前に生徒に伝えた。

○資料の準備

・学級教育目標

「授業と復習（サイクル）を徹底できる生徒」

「人に思いやりをもってかかわることのできる生徒」

「健康で生き生きと学校生活を送ることができる生徒」

・保護者の願い

「こんな中学生になってほしい」というアンケートを実施した。

「こんな中学生に育ってほしい」アンケートのお願い

陽春の候、保護者の皆様におかれましては益々ご隆勝のことと拝察いたします。日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき深く感謝申し上げます。

今年度、1年1組を担任させていただくうえで、子供たちが「自分で自分の目標を決めて、自分でがんばる」姿を大切にしていきたいと考えております。

そこで、保護者の皆様の「こんな中学生（1年生）に育ってほしい」という思いや願いを教えていただきたいと思います。

その思いや願いをまとめ、教室に掲示させていただく予定です。ただし、保護者氏名は除きます。

何かと御多忙の所とは存じますが、11月(月)までによろしくお願い致します。

切り取り

1年1組　保護者氏名

こんな中学１年生に育ってほしい

・生徒の願い

一人一人が考える理想の中　学１年生の学校生活のアンケートを実施した。

イ　実践の概要

○中学１年生の期待や不安について話し合う【つかむ】

アンケートの結果をもとに「期待と不安」を話し合った。楽しみなことや不安なことを全員で共通認識し、本時の学習のめあてをつかんだ。

楽しみなこと ベスト6	
1位	部活動
2位	行事
3位	勉強（新たな）
4位	新しい出会い
その他	・このクラスでいること ・図書室　・英語の授業 ・素晴らしい活動 ・給食 ・ジョイントスクール

アンケート結果

不安なこと ベスト6	
1位	勉強
2位	新しい出会い
3位	先輩
4位	部活動
5位	テスト
その他	・なれない　・英語の授業 ・荷物が多い　・マラソン

○理想の学校生活について話し合う【さぐる・見付ける】

中学１年生の学習や生活、中学生としての心構えなどについて話し合った。また、担任の方針も具体的に話し、安心感や期待感を高めるようにした。理想の学校生活を目指すために「自分たちで」「計画的に」「協力する」ことが大切であること、そして「話合い活動（学級会）」が重要な役割を担うことを確認するためのオリエンテーションも取り入れた。

＜オリエンテーションでのやりとり＞

T:理想の学級生活を目指すには何が必要だろう。
S1:協力することだと思います。
S2:思いやりだと思います。
S3:積極性だと思います。
S4:受け身にならないことだと思います。
T:どの意見も大切なことですね。こうした思いや願いを実現するために大切にしていきたい時間があります。何でしょう。小学校を思い出して下さい。
S5：学級会だと思います。

理想の学級生活について考え、互いの思いや願いを共有し、それを実現するための１つの手段が、「学級会」であることを確認する。

小学校生活を想起させることで、小学校で取り組んできたことを中学校生活でも生かせることを実感させるねらいがある。

「学級会」の時間についての確認事項

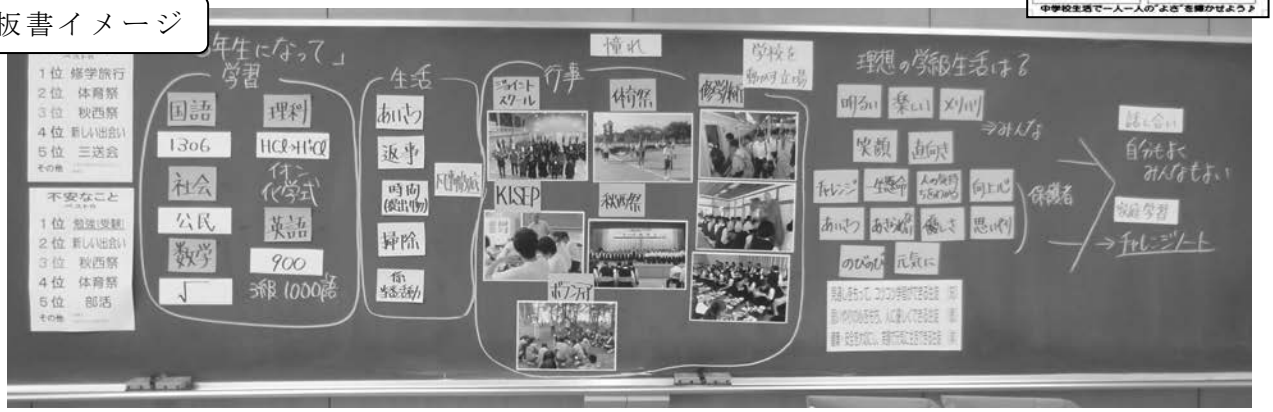
◇理想の学級生活を実現するための時間
◇「自分もよくみんなもよい」集団決定をする時間
　→合意形成（折り合い）をしながらまとめていく。
◇生徒中心の時間であるということ。等

○自分の目標を決める【決める】

話合いを参考に、生徒が自ら努力していく目標を自己決定した。「学習・生活・部活（運動）」と「自由欄」の４つの目標をカード（右写真）に記入した。

学期末に自分の目標の振り返りを行い、２学期に目標を立てるときに生かすようにする。

板書イメージ



（２）小中のつながりを意識した学級活動（１）の実践

①議題「○○先生（教育実習生）に感謝をする会の計画を立てよう」（６月）

②活動のねらい

ア　小中のつながりを意識した話合い活動に取り組み、事前から事後までの活動を積み重ねていくことで、豊かな学級文化を創造しようとする態度をはぐくむ。

イ　話合い活動を通して、集団の一員としての自覚を深め、望ましい人間関係を築く力をはぐくむ。

【ねらいに迫るための具体的な手立て】
・小中のつながりを意識した話合い活動の指導の工夫
・目的を明確にした話合い活動の充実

③評価の観点と本実践における評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
教育実習生との生活を振り返り、他の生徒と協力して感謝の会の話合いや事前・事後の活動に関心をもち、取り組もうとしている。	学級の一員として自分の役割と責任を自覚し、互いの意見を認めながら、よりよい生活づくりにつながる感謝の会を考え、実践している。	充実した学級生活を築くことの意義や、“自分もよくみんなもよい”折り合いをつける話合い活動の方法を理解している。

④指導の実際

ア　事前に至るまでの活動

話合い活動（学級会）を一般化するための工夫

話合い活動を一般化するために、小中合同研修会で検討されたことを、本校の特別活動部内で再検討し、一般化を図った。

・学級会グッズ…小学校で活用していたものを生かす形にした。

学級会グッズ

・学級活動コーナー…活動に見通しをもって取り組むことができるようにした。

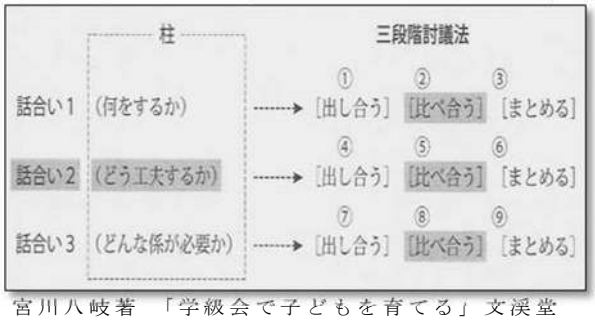
・話合いの進め方…司会グループ（学級活動委員）を輪番制で、誰もが経験できるようにした。

学級活動コーナー

イ　事前の活動

３段階討議法の活用

宮川八岐氏が提唱している３段階討議法で話合いを進める。今何を話しているのかを明確にしながら、話合い２を中心としたものを目指していく。また、話合い１の出し合うについては、事前に出し合うなど話合いを深める工夫をしていく。



宮川八岐著　「学級会で子どもを育てる」文渓堂

学級活動委員への指導

役割分担や進め方の確認、学級活動ノートに出た意見を短冊にまとめることを通して、どのような話合いになるか見通しをもたせる。

S1：○○に意見が集中しているね。
S2：けど、他にもたくさん意見が出ているよね。
S3：まとまらない時はどうすればいいですか。
T：小学校のときは、どうだった？
S3：何のために話し合うのかを確認したように思います。
S4：前回の学級会でも、提案理由を意識して話合いを進められない場面があったからね。

事前準備の様子

小学校や前回の学級会を想起させながら、話合いが進められた。

学級活動委員は、全員が経験できるように、輪番制で行う。活動時間は、主に学級の時間に行う。※「学級の時間」…本市は、週１回部活動を行わない日が設けられていて、その日を学級の時間として確保している。場合によっては、給食の時間や昼休み、朝の時間を活用することもある。

ウ　本時の活動

	活動の内容	話合いの様子　◎目指す生徒の姿
活動の開始	1　はじめの言葉　2　役割の紹介　3　議題の確認 4　提案理由の説明 ①現在の状況について 提案理由に入れたい内容 ○○先生が４週間の実習をこの１組を中心に行ってくれました。４週間という短い期間でしたが、授業や給食、清掃など様々な場面で私たちにかかわって支えてくれました。今回、これまでの○○先生への**感謝の気持ちを伝える**会を計画し、１組との最高の思い出をつくりたいと思い、この会の計画を提案しました。 ②取り組む理由について また、この会を通して、１組の仲間同士がもっといい関係になり、笑顔があふれ、これからの学級生活を楽しく、充実させたいと思っています。 ③理想の学級像について 5　条件の確認（取り組むことは２つ。その他、日時や場所、準備期間等も提示。）	
活動の展開	6　話合い　柱①　何をするか　柱②　盛り上げるための工夫　柱③　役割分担 柱①　何をするか：「バドミントン」と「メッセージカード」に決まる。 ・実習生が大学のバドミントン部で活動していることを考えた発言から決定した。 柱②　盛り上げるための工夫 ***◎折り合いをつける話合いの方法を理解している。（知識・理解）*** グループ対抗で○○先生と対決すればいいと思います。理由は、思い出になると思うからです。 コートの大きさを変えたり、得点に差をつけて取り組んだ方がいいと思います。理由は、○○先生は上手だから、勝負にならないからです。 同様の発言が続いた。（中略）	

活動の展開	この会は、○○先生へ感謝の気持ちを伝える会だから、勝負とか細かなルールにこだわっても仕方がないと思います。６年生のときやったふれあい集会みたいにみんなの気持ちが伝わるものがいいと思います。 提案理由を意識し、小学校の学級会を想起した発言 一人一人順番に○○先生とラリーをしながら、○○先生に感謝の言葉を伝えるのはどうですか。 楽しそう。おもしろそう。（中略） 司会：○○先生と一人一人がラリーをしながら感謝の言葉を伝えるに決まりました。 ***◎学級の一員として自分の役割と責任を自覚し、互いの意見を認めながら、よりよい生活づくりにつながる感謝の会を考え、実践している。（思考・判断・実践）***
活動のまとめ	７　決まったことの確認 ８　提案者からの感想 ９　振り返り １０　教師の話　（１）前回と比べてよかった点 （２）次回への課題　（３）ねぎらい １１　終わりの言葉 提案理由を意識した話合いができました。（集団の変容を捉える）

エ　事後の活動

活動を振り返るとともに、今後の集団宿泊行事でどのように生かすかを考える。

◎仲間と協力し、活動に関心をもち取り組もうとしている。（関心・意欲・態度）

≪実践したその他の議題≫

「“１組･結成２カ月”中学校生活いいスタートができたね会の計画を立てよう」

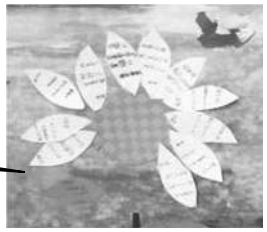
「感動ある体育祭にするための取組を計画しよう」

「最高の合唱曲にするための取組を計画しよう」

「体育祭＆合唱祭とってもがんばったね集会の計画を立てよう」

「“１組・解散まで１カ月”仲間に感謝して２年生もがんばろう集会を計画しよう」

花びらに「こんなことをしたい（議題になるようなもの)」を記入して貼っていく。



３　成果と課題

○活動後、生徒から「もっと学級をよりよくしたい」という思いや願いを生かす掲示物「ひまわりを咲かせよう」が生徒の発想から生まれ、学級生活を豊かにしようとする意識が高まってきた。

○「自分もよくみんなもよい」話合い活動をし、実践することを積み重ねることは、出身小学校に関係なくかかわる場面が増え､相手のよさを認め合えるようになってきた。（また、小学校時に欠席がちな生徒が、元気に登校している。）

● ９年間の学びを見通したとき、小学校から積み重ねてきた話合い活動の質をどのように向上させていくかが課題となる。

第３分科会　生徒会活動

東京都中学校特別活動研究会
東京都中学校生徒会長サミットの歩み

練馬区立石神井東中学校　主幹教諭　藤本　謙一郎

１　はじめに

東京都中学校特別活動研究会では、平成 14 年度から東京都生徒会長サミットを行っている。当初は一回だけの予定であったが、取組の有用性から現在まで継続して行っている。

	実　施　日	開催場所	備　考
第１回	平成14年 7月25日（木）	中野区立第三中学校	
第２回	平成15年12月 6日（土）	中野区立第九中学校	
第３回	平成16年12月11日（土）	中野区立第九中学校	
第４回	平成17年 8月 4日（木）	中野区立中央中学校	全国大会の中で実施
第５回	平成18年12月 9日（土）	中野区立第九中学校	
第６回	平成19年12月22日（土）	東京都庁・第一庁舎	東京都教育委員会共催
第７回	平成20年12月22日（土）	東京都庁・第一庁舎	東京都教育委員会共催
第８回	平成21年12月26日（土）	東京都庁・第一庁舎	東京都教育委員会共催
第９回	平成22年12月25日（土）	東京都庁・第一庁舎	東京都教育委員会共催
第10回	平成24年 1月28日（土）	東京都教職員研修センター	全国大会の中で実施
第11回	平成24年12月 1日（土）	東京都教職員研修センター	全国大会の中で実施
第12回	平成25年12月26日（木）	練馬区立関中学校	
第13回	平成26年12月26日（金）	練馬区立関中学校	
第14回	平成28年 1月30日（土）	練馬区立関中学校	
第15回	平成28年11月19日（土）	墨田区立本所中学校	本大会の中で実施

第１回は、「交流を通して共に高め合おう」をスローガンに、東京都内 46 校、生徒 83 人が集まり行われた。このときの次第は以下の通りである。

（１）全体会

・主催者あいさつ　　江東区立深川第五中学校長（都中特活会長）加々美　肇

・実践発表　「地域と連携した特色ある生徒会活動」　中野区立北中学校

「日常的な特色ある生徒会活動」　八王子市立第二中学校

「学校行事と関連した特色ある生徒会活動」　江戸川区立西葛西中学校

・分科会へのガイダンス　　中野区立第三中学校長　保積芳美

（２）分科会

・第一分科会「地域と連携した特色ある生徒会活動」　参加生徒会役員 26 人

・第二分科会「日常的な特色ある生徒会活動」　参加生徒会役員 38 人

・第三分科会「学校行事と関連した特色ある生徒会活動」　参加生徒会役員 19 人

全体会の様子

分科会の様子

２　東京都生徒会長サミットの歩み

第１回生徒会長サミットを終え、その有用性を強く感じ、今後も生徒会活動を活性化させるためにも「特色ある生徒会活動の実践報告等に学び、各校の生徒会活動の充実・発展を図る」「他校との情報交換などを通して、広く交流の機会をもち、リーダーとしての資質や態度を育てる」という２つのねらいをもって現在まで継続して実施されている。

こうした取組の中で、東京都教育委員会と共催して行われた時期がある。第６回から第９回までの生徒会長サミットである。当時、いじめ問題が大きく取り上げられた時期であり、「いじめ防止フォーラム」として開催された。「いじめ防止のために何ができるか」を考え、いじめ撲滅に関する大会宣言を採択した。この４回のサミットは、都庁で行われ、生徒会役員だけでなく、教職員、保護者、都民合わせて 600 人以上が参加する大規模なサミットとなった。第６回の次第は以下の通りである。

（１）実践報告　「いじめ撲滅運動の推進」　大田区立安方中学校

（２）いじめ防止フォーラム　参加者　江東区立第三砂町中学校、大田区立安方中学校、八王子市立四谷中学校
教員代表、保護者代表、都民代表

（３）いじめ撲滅に関する大会宣言の提案と採択

いじめ撲滅宣言

すべての生徒は、“楽しい学校生活を送る”権利を持っています。
“いじめ”は、この権利を奪うものです。
いじめを受けた人のみならず、いじめを行った人や周囲で見ていた人にも、
心に癒えることのない傷が残るのです。
いじめは、絶対に犯してはならない大きな過ちです。
人間は本来、優しい心を持っています。
人を思いやり、愛し、慈しむ心があるのです。
その優しさを表す勇気こそ、私達は持つべきなのです。

東京都内の全ての中学校から、全ての生徒の責任として、あらゆるいじめをなくし、互いに支えあい、誰もが楽しいと思える学校を作るために、
私達はここに次のことを宣言します。

一、どんな理由があっても“いじめ”は絶対にしません。
一、いじめを見つけたら、自分たちに出来ることを考え、行動します。
一、一人ひとりが互いの個性を認め合い、思いやりの心を持って、中学校生活を送ります。

平成19年12月22日　東京都中学校生徒会長サミット　採択

第７回生徒会長サミットでは、八王子市立四谷中学校のいじめ防止の望ましい人間関係づくりの実践報告、「いじめ撲滅宣言」についての行動指針が協議された。また、生徒会役員、都民、教員、関係機関の方、様々な登壇者によるいじめ防止のパネルディスカッション、会場の生徒会役員との意見交換などが行われた。これらを受けて舞台奥では生徒会役員の代表がプロジェクトチームをつくり、最後に昨年度つくったいじめ撲滅宣言についての「行動指針」を提案し、参加生徒により採択された。

いじめ撲滅宣言についての行動指針

一、どんな理由があっても“いじめ”は絶対にしません。
○　「いじめ」をなくそう！というスローガンを生徒会の活動方針等に入れよう。
○　いじめ防止ポスターを掲示するとき、生徒会は生徒会朝会等を利用して、その趣旨を説明しよう。
○　「パソコンや携帯電話等の掲示板に人を中傷する書き込みはしない。チェーンメールはまわさない。」という考えを、標語つくり等を通して全校生徒に広めよう。

一、いじめを見つけたら、自分たちに出来ることを考え、行動します。
○　生徒会投書箱等を設置し、生徒会もいじめ発見に努めよう。
○　いじめを見つけたら、すぐ身近な人に報告、連絡、相談しよう。
○　学級や委員会、生徒会本部委員会などでいじめ防止について話し合おう。
○　いじめられている生徒に声をかけよう。

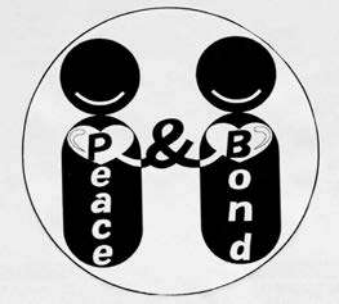
一、一人ひとりが互いの個性を認め合い、思いやりの心を持って、中学校生活を送ります。
○　人間関係をよりよくするための生徒会活動を進めよう。
○　相手の考え、意見を理解し、自分からも主張するように心がけよう。

平成20年12月20日　　東京都中学校生徒会長サミット　採択

第８回生徒会長サミットでは、第７回生徒会長サミットで採択した「いじめ撲滅宣言についての行動指針」に基づいた取組を都内全中学校で推進することを考えることと、公募した「いじめ撲滅のためのロゴマーク」を参加者による投票で決定することを行った。

実践発表では、西東京市立青嵐中学校生徒会の「レッドリーフ運動」「Forever　Consideration 新聞の発行」「オピニオン BOX（目安箱）の設置」「思いやりアンケートの実施」「いじめ防止に向けた中央委員会の活動の取組」といった具体的な実践例が発表された。また、西東京市は市立中学校生徒会長サミットを開催し、情報交換、意見交換をしているとの報告もあり、この生徒会長サミットが各自治体のサミットへと広がっている様子もうかがえた。

採択されたロゴマーク



このマークは「平和と絆・Peace＆Bond」という意味です。ここでの「平和」とは、「心の平和」を示しています。全ての中学生は、「安心して楽しい学校生活を送る権利」を持っています。私たち一人ひとりが、Bond絆を深めることで、学校からいじめを徹底的に追放しなければいけないというメッセージが込められています。（作成者の説明より）

第９回生徒会長サミットでは、中学校だけでなく、小学校児童会・高等学校生徒会による実践発表も行われた。「いじめ防止」をテーマとしたサミットも４年目となり、各校の実践はとても工夫の凝らされたものばかりで、参加した生徒には大きな刺激となった。

○大田区立大森第三中学校生徒会の実践発表

「いじめ撲滅運動」として主に「討論会」「いじめ撲滅ビデオ」に取り組んでいる。その目的は、「身近ないじめや嫌がらせに対しての意識を深めてもらうため」「自分がされている立場になった時のことを考えてもらうため」である。「討論会」では、「見て見ぬ　ふりをする人は悪いか」「注意でいじめは減るか」について話し合っている。「いじめ撲滅　ビデオ」は、いじめについてのドラマで、５年ほど前から作っている。例年冬休みからはじめて２月に体育館で全校生徒に発表をしている。

○青梅市立霞台中学校生徒会

「いじめ撲滅を目指す活動」として「グリーンリボン運動」「いじめ撲滅アンケート」に取り組んでいる。グリーンリボン運動は、「いじめをしない」と誓った生徒が自主的にリボンをつけるようにし、いじめの意識を高めるという活動である。リボンを渡すときに、宣誓書とリボンを交換する。また、宣誓書は２枚書き、１枚は生徒会で保管、もう１枚は自分で保持する。リボンは制服のポケットにつけ、宣誓書は生徒手帳に入れ、より意識を高めるようにしている。現在の普及率は、５０％程度である。

アンケートは、学校の現状を知るために実施し、今後のいじめ撲滅の取組に活用するために実施している。質問項目は、「いじめとは何だと思いますか」「いじめにあったり、見たりしたらどうしますか」「どうしていじめが起こると思いますか」「どうすればいじめを防げると思いますか」である。

○青梅市立河辺小学校児童会

「いじめ撲滅を目指す活動」として、「あいさつ運動」「花いっぱい運動」などを行っている。また、新たな活動として「ハートフル河辺小　ＣＨＡＮＧＥ　霞台」を展開している。具体的には、あいさつ週間、ふれあいタイム（ドッジボール、ハンカチ落とし、宝探し等）、ハートフル合言葉コンテストを行っている。

・ハートフル合言葉の例

ケンカして　次の日ニッコリお友達（１年）」

「大丈夫」 それは勇気づける合言葉　（６年）

ありがとう　言える勇気が　思いやり（５年）

・ＣＨＡＮＧＥの内容　「Ｃ」：clean（クリーン）　「Ｈ」：花いっぱい運動

「Ａ」：あいさつ運動　「Ｎ」：ＮＯチャイム運動

「Ｇ」：グリーンリボン運動　「Ｅ」：Enjoy（楽しむ）

○東京都立晴海総合高等学校生徒会

生徒会役員会で「いじめ」について、「晴海総合高校にはいじめがあるか」「自分が今まで経験したいじめについて」「いじめに対してどう対処していくか」など話し合い、その内容を録画したものを放映した。

以上の４回をもって、東京都教育委員会との共催で行ったサミットは終わりとなった。その後、再び東京都中学校特別活動研究会主催のサミットが行われるようになった。理由としては当初の目的の１つである「他校との情報交換などを通して、広く交流の機会をもち、リーダーとしての資質や態度を育てる」ことを進めるため、これまでの４回のサミットでは時間的に課題があった「分科会における情報交換」を行うためである。

そこで、第 10 回生徒会長サミットは東京都教職員研修センターで実施され、全体会と分科会を行い、生徒会長同士の情報交換が密になるように進めた。サミットが終わった後、「もっと話を聴かせて欲しい」と互いに交流する生徒の姿がとても印象的であった。全体会と分科会の内容は以下の通りである。

（１）全体会

○大田区立大森第六中学校生徒会

「よりよい学校生活を送るための活動」

・挨拶運動、節電活動、被災地への活動（修学旅行でお世話になっている岩手県花巻市石鳥谷町へ応援幕贈呈）

「ボランティア活動」

・清掃活動（夏休み校内キレイ活動、秋校庭落ち葉清掃）、自然環境を活かした活動（農援隊）、地域への活動（洗足池清掃、ホタル復活プロジェクト）、世界に向けての活動（エコキャップ回収活動、書き損じ葉書回収運動）

○八王子市立ひよどり山中学校生徒会

「地域の中の学校として地域の行事への積極的な参加」

・ひよどり山中の農業（東京都の元気農場、校地で総合的な学習の時間を使い全学年が農業に取り組んでいる）

・里芋プラン（芋煮を作り食べる。絆を深める）、うきうきシティー（児童館主催行事に生徒会として参加）、センター祭り、ひよどり山音楽祭

（２）分科会

狛江市立中学校生徒会役員が司会、記録を担当し、３つの分科会に分かれて意見交換を行った。東日本大震災支援に向けた取組として、多くの学校で募金活動が行われた。東大和市立第五中学校からは、東大和市立図書館が実施した被災地への移動図書館に必要な本を集め協力したという報告があった。意見交換の内容を大きく分けると「地域とのつながり、交流」「ボランティア活動」「生徒会の運営について」「募金活動」だった。

第 12 回からは練馬区立関中学校にて実施された。内容としては第 10 回、第 11 回と同様に全体会と分科会の２本立てで行われ、「特色ある生徒会活動の実践報告等に学び、各校の生徒会活動の充実・発展を図る」「他校との情報交換などを通して、広く交流の機会をもち、リーダーとしての資質や態度を育てる」というねらいに向けて取り組まれた。

第 12 回生徒会長サミットでは、「助け合い　励まし合う　仲間づくり」をテーマとした。都内 107 校が参加し、生徒数は 200 人以上であった。体育館で行われた全体会では、杉並区立天沼中学校と武蔵村山市立第一中学校から実践報告があった。

（１）杉並区立天沼中学校・・・・杉並区サミットの報告、いじめ防止実践

（２）武蔵村山市立第一中学校・・小中連携した人権標語つくり
各教室で行われた分科会では、狛江市中学校生徒会役員が司会、記録を担当し、意見交換を進めた。内容は、全体会の発表内容を受けて「いじめ撲滅」に関する活動と「小学校との連携」に関する活動について自校の取組みを発表し、各校の成果や課題について活発な意見交換が行われた。

また、各校で日頃取り組んでいる内容を紹介し合い、生徒会活動を活発にするためにどうすればよいのかについても意見交換を行うことができた。

いじめ撲滅や小学校との連携の他にも、ボランティア活動、目安箱（意見箱）の設置、清掃活動、募金活動、ペットボトル回収、行事への協力、生徒会新聞の発行等、多くの学校が共通した活動を行っていることが分かった。

第 13 回生徒会長サミットでは、「情報化社会を生きる私たちのモラル」をテーマとした。都内 80 校が参加し、生徒数は 140 人以上だった。全体会では、シンポジウムが行われ、ファミリーｅルールの事務局の方をコーディネーターとして招き、東大和市立第二中学校生徒会２人、武蔵村山市立第一中学校生徒会２人、武蔵村山市立第四中学校生徒会２人の３校の代表生徒がネットや SNS の利用、学校で決めたルール作りについて、意見交換が行われた。

分科会では、狛江市立狛江第一中学校、狛江市立狛江第二中学校、狛江市立狛江第三中学校、狛江市立狛江第四中学校、東大和市立第五中学校、練馬区立関中学校生徒会役員が司会・記録を担当し、意見交換を進めた。内容は、全体会の発表内容を受けて「情報化社会を生きる私たち　～情報化社会のモラルについて～」について話し合うとともに、生徒会活動に関する情報交換・意見交換を行った。

第 14 回生徒会長サミットでは、「助け合う　励まし合う　仲間づくり」をテーマとした。都内 77 校が参加し、生徒数は 160 人以上だった。全体会では、狛江市立狛江第一中学校、世田谷区立尾山台中学校の実践発表があった。

（１）狛江市立狛江第一中学校・・ホワイトリボン運動、いじめ防止の歌の作成（生徒会作詞、歌う道徳講師の大野靖之さんの作曲）

（２）世田谷区立尾山台中学校・・マスコットキャラクターの作成、地域清掃活動「クリンクリン」、残菜ゼロ運動「まんぷっく」、学校生活の教科書「おやナビ」など

分科会では、狛江市立狛江第一中学校、狛江市立狛江第二中学校、東大和市立第一中学校、練馬区立関中学校、大田区立田園調布中学校、墨田区立本所中学校生徒会役員が司会・記録を担当し、意見交換を進めた。内容は、全体会の発表内容を受けて「助け合う　励まし合う　仲間づくり」について話し合うとともに、生徒会活動に関する情報交換・意見交換を行った。

３　成果

生徒会長サミットでは実施後に生徒会担当教員へのアンケート調査を行っている。第 14 回生徒会長サミット（平成２７年度実施）後に行った結果が資料１、資料２である（回答数 70 件）。これによると、生徒会担当の教員は５年以下がもっとも多く、さらに生徒会指導の経験年数も２～５年がもっとも多い。つまり、新規採用教員が採用後すぐに生徒会担当となっていると考えられる。そして、サミットの引率経験は初めてという教員がほぼ半数を占めており、参加後に意識や指導に変化があったと回答した人も８割程度を占めている。この資料から、生徒会担当の教員は、教職経験が浅く、どのような指導を行うのかあまり分からず困っている人がいると考えられる。また、中堅教員の人口数の少なさによるベテラン教員から若手教員への指導法の伝達が滞っている課題もあり、このような現状の中、生徒会長サミットへの参加によって多くの情報を得、その後の指導に活かせていることは意味ある活動であると考えられる。

資料１　アンケート調査の自由記入欄より（括弧内は同じ意見の数）

【設問１　生徒会長サミット参加後の生徒会役員の変化は】

・話しあったことを実践しようとしていた。（１５）・どんなことを他校がやっているかを報告し、一部取り入れた。・生徒会役員としての自信と誇りを感じるようになった。・今までは自ら企画しようと思わなかったのがこちらに提案してくるようになった。（５）・他校の取組を参考にして自分達の活動に工夫を加えた。（４）・PC で作成していた生徒会新聞を手書きにすることで味を出し、訴える力を生むだろうということで時によって手書きの新聞を導入した。・新しい取組にチャレンジしようとしています。（９）・ＳＮＳについてアンケートやスローガンを作成した。・積極的に活動に取り組むようになった。・いじめについての認識など（３）・他校の取組を自校に取り入れようとする姿勢ができた。・他校の実践から刺激を受け、新しい取組を主体的に考えるようになった。（８）・生徒会新聞にアンケート意見欄を設ける等、工夫が見られた。

【設問２　生徒会長サミット参加後の生徒会担当としての変化は】

・生徒会に関わる先生方と話をすることができ、色々な取組を自校に持ちかえれた。・指導に直結しているのか分かりませんが、もっと生徒会の活動を全校生徒に知ってもらいたいという心境の変化があった。・一つの取組にしてもいろいろなこだわりがあることがわかった。深く指導できるようになった。・生徒会に時間をとるようになった。・生徒の自主的な活動ができるように心がけた。・他校の取組をより見るようにり考え方の幅が広がった。（３）・もっと多くの活動を視野に入れてもいいということに気づかされました。・いじめ撲滅やあいさつ運動への意識が高まり、活動を企画した。・活動に意味を持たせることが大切なので教員内でその統一性を一貫させてから活動に移るようになった。・他校の取組などを調べ、生かせるものを探しています。・発言の仕方や校外の活動に参加させることの大切さを感じている。・さまざまな提案が出せるようになった。・もっと活性化しなければと考えるようになった。・新たな取り組みを始めた。・他校との交流の効果をとても感じた。・生徒の考えた新しい取組の実現に努めるようになった。・他校の生徒会活動を聞けてよい刺激になった。・他校の生徒会長の立派な姿を見て今後の指導の参考にしたいと思った。・生徒会の可能性を感じ、生徒に挑戦させようと思った。・リーダーとして育てたいと思いました。

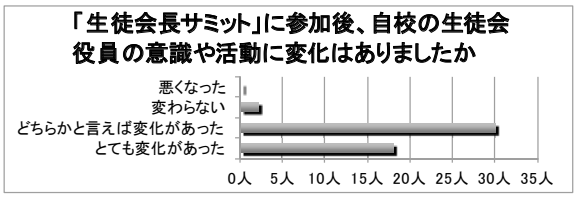
【設問３　要望又は自校での新しい取組について】

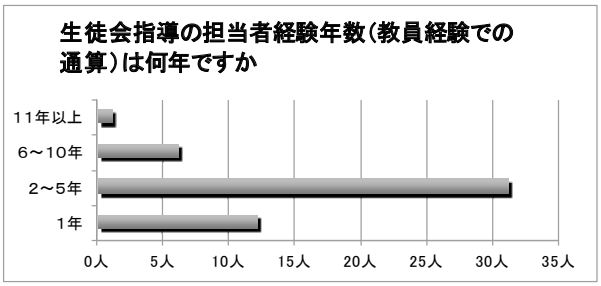
・難しいとは思いますが、サミットの参加人数がもう少し増やせるとサミット後の生

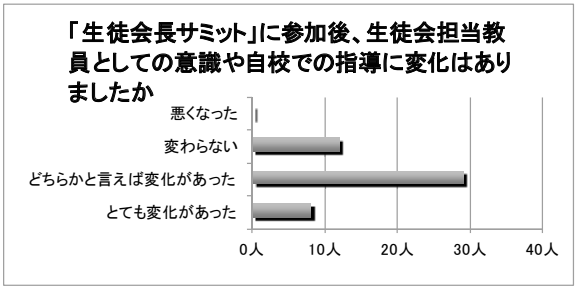
徒会本部役員の意識が高まると思います。・他校の取組を知ることや交流ができ、生徒にとっても良い体験となりました。可能ならば、次回も参加させたい気持ちです。ありがとうございました。・昨年度は、生徒会長サミットで大変お世話になりました。生徒・教員共々、よい刺激を受けさせていただきました。本年度もどうぞよろしくお願いします。・本校では、小中連携の取組として、読み聞かせ、ペットボトルキャップ回収をしていますが、他校ではどんな取組をしているのか聞きたいです。・小中一貫教育校のため小学５年生から生徒会役員として参加しています。小中連携で何か行っている活動が他校であれば教えていただきたいです。・ＳＮＳ東京ルールなどの、自校のＳＮＳに関するルールの共有と成果について教えていただきたい。・会場などの選定にご苦労されているかと思いますが、会場はぜひ駅が近いところで、東京の中央になる位置が助かります。・活動に時間がかかり、役員の引き受け手がない。

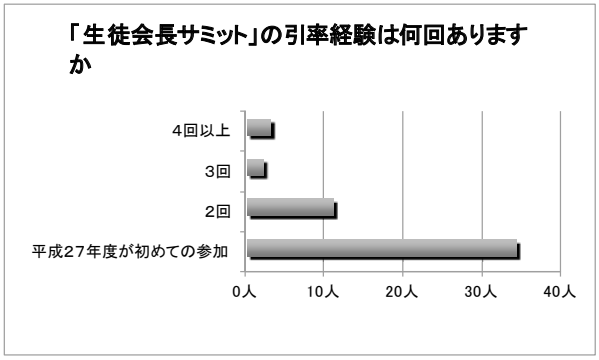
資料２　アンケート調査の集計結果

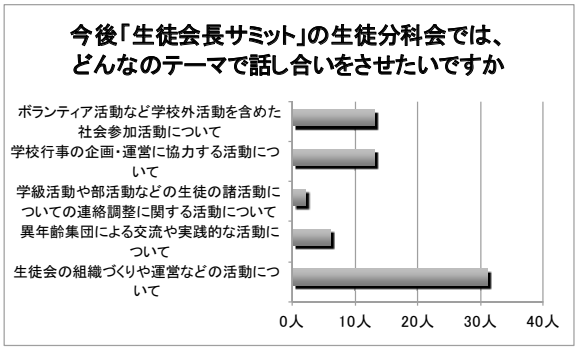
「生徒会長サミット」に関する生徒会担当教員へのアンケート調査 回答者：７０名

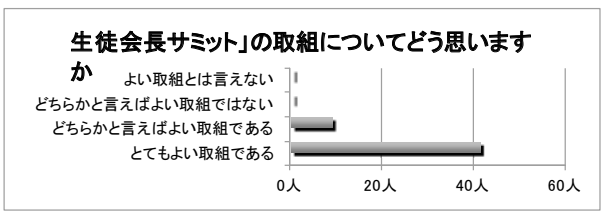


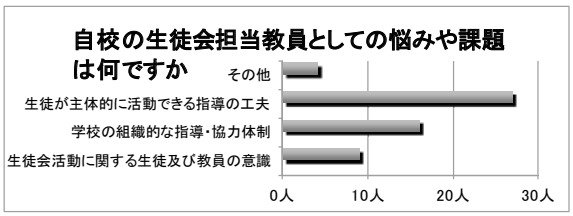












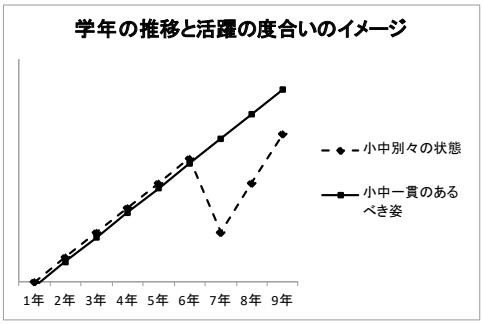
第４分科会　学校行事

小中一貫校としての学校行事の開発

武蔵村山市立小中一貫校村山学園　教諭　尾﨑　菜穂登

1　主題設定の理由

本校は、全国的にも珍しい施設一体型の小中一貫校である。施設一体型故に、小中の交流、連携が取りやすい環境下にあるが、開校当時は、なかなか進まない現状があった。教員の間にも、同じ施設にはいるが、小学校と中学校は別のもの、文化が違うため同じようにはできない、といった空気があった。その結果、以下のような問題がおきていた。



①　６年生のとき、小学校のリーダーとして活躍していたのに、７年生になると、“中学１年生“として扱われ、活躍する機会がなくなる。（右のグラフは、イメージ図）

②　小中の交流が少ないため、小学生（１～６年生）が中学生（７～９年生）にあこがれるような機会に乏しい。

③　①②を原因として、進級への期待感が薄いこと、環境の変化がなく気が緩みがちになること、教科担任制になることなどから、第７学年で学校生活上の問題が多く発生するようになっていた。

④　学校行事を小中別々に行っていた状態であったので、ねらいなどの系統性が９年間を見通したものになっていなかった。

⑤　教員が主導する活動が多く、児童・生徒の主体性が育っていなかった。

そのため､平成２４年度に着任した齋藤実統括校長の指揮の下､｢１つの学校｣を合言葉に、本主題を設定し、さまざまな改善策を打ち出していった。

2　研究のねらい

①　小中の児童・生徒が交流する機会、特に中学生が小学生を率いる機会を増やす。

②　①などにより、小学生が中学生をあこがれるようになる風土をつくる。

③　生徒が主体的に活動する機会を多くし、主体性と自己有用感を育てる。

④　学校行事を、種類ごとに９年間を見通し、系統だったものに整理していく。

3　研究の内容　　※（）内の数字はねらいの番号、その後の言葉は、ねらいの概要を表す。

（１）運動会での実践　　※下線部は特に大きな変化

・<u>以前は、準備や運営を教員主導で行っていたが、教員は係や実行委員、特に９年生への指導を強化し、生徒主導で準備や運営を行う機会を増やした。（②あこがれ ③主体性）</u>

・応援団を発足させ、７～９年生が学ラン姿で全校を応援するようにした。（②あこがれ）

・係、実行委員、応援団とも、５～９年生で組織するようにした。（①交流 ②あこがれ）

・時間を多く必要とする小学部の表現種目を２学年合同にするなどして整理し、一貫リレー（１～９年の順にリレー）を導入した。（①交流　②あこがれ）

・前日準備などでボランティアを募り、生徒が活躍する機会を増やした。（③主体性）

（２）合唱コンクールでの実践　　※下線部は特に大きな変化

・中学部の行事であったが、５、６年生を参加させるようにした。（②あこがれ）

・実行委員も５～９年生で組織するようにした。（①交流）

・実行委員が担う仕事を増やすとともに、上級生が下級生を指導する体制にした。（①～③）

・９年生の学年合唱を学芸会で１～６年生に披露するようにした。（②あこがれ）

（３）宿泊学習、校外学習（校外班行動）での実践　　※下線部は特に大きな変化

・６年生までに、集団（大部屋）での宿泊生活ができるようにするために、４・５年で移動教室を導入した。それをふまえ、７～９年では、なるべくホテル形式（少人数、風呂は部屋で入る）を採用するようにした。（③主体性　④系統性）

・鎌倉での校外学習を導入することで、６年日光・７年川越（江戸時代）→８年鎌倉（鎌倉時代）→９年京都・奈良（平安時代、奈良時代）という時代を遡りながら学習する流れをつくった。（④系統性）

・教員が逐一指示するのではなく、しおりの時程を見て行動させるようにした。（③④）

・集団行動の仕方やチェックの受け方を、学年間で統一するよう進めている。（④系統性）

（５）その他の行事　　※下線部は特に大きな変化

・年３回、全校大縄大会を実施し、全クラスで記録を競い合うようにした。（①交流）

・４年生の自転車免許試験や星を見る会、全校で行うもちつき体験や展覧会などで、７～９年生のボランティアを募り、７～９年生が活躍する機会を増やした。（①～③）

・キャリア教育の１つとして、「卒業生の話から生き方を学ぶ会」を実施。（②あこがれ）

４　成果

・行事の準備を５～９年生で行うことが基本となった。小中合同で実施する行事も増えた。

・小学部の教員と中学部の教員が協働して行事の準備にあたることが当たり前になった。

・ボランティアへの参加数が毎年増え続けるなど、生徒の主体性が増している。

・学校運営協議会や保護者アンケートなどで、学校の様子、行事の内容、生徒のふるまいについて、研究開始以前よりも好意的な意見が増えた。

５　課題

・７年生が、上級生としてではなく、リーダーとして活躍する場面が少ない。

・様々な活動を行う中で、行事の数が増え、準備の負担も増している。行事の精選や、運営の効率化が必要である。

６　研究のまとめ

研究を通して、中学校の学校行事が、小学校で身に付けてきた力をふまえたものに必ずしもなっていないことがわかった。６年生は、学校のリーダーとして様々な活動をして中学校に上がるが、中学１年では、その力を生かす機会が少ないのではないか。また、小学校で身に付けた力を発展させるのではなく、同じような目標の活動を再度行っている場合も多いと思われる。本研究の視点は、小中一貫校だけでなく、通常の中学校でも必要であろう。

資　料

★全日本中学校特別活動研究大会の歩み

回	開催年月日	開催地	「主　題」 （会　場）	会　長 実行委員長
第１回	昭和47. 6.8（木） 9（金）	東京都 （板橋区）	「望ましい人間関係をめざして、新しい特別活動をどのように進めたらよいか」 ～その計画・運営・指導の在り方を研究する。～ （板橋区立区民会館・産業文化会館、板橋区立上板橋第一中学校　他５会場）	須田　重雄 須田　重雄
第２回	昭和48.11.8（木） 9（金）	広島県 （福山市）	「ひとりひとりをたいせつにする特別活動はいかにあるべきか 」～特にクラブ活動をとりまく課題を明らかにし、その計画・運営・指導のあり方をさぐる～ （福山市民会館、福山市立城北中学校、他２会場）	須田　重雄 近藤　通珍
第３回	昭和49.6.6（木） 7（金）	東京都 （中野区）	「これからの特別活動の充実をどのように進めるか」 （中野区立公会堂、中野区立中央中学校）	菊池　四郎 菊池　四郎
第４回	昭和50.6.20（金） 21（土）	東京都 （目黒区）	「生きがいを育てる特別活動の指導をどのように進めるか」 （東京都立教育研究所）	菊池　四郎 菊池　四郎
第５回	昭和51.6.24（木） 25（金）	埼玉県 （浦和市）	「これからの学校教育の中学校における特別活動」 （浦和市民会館、桶川中学校、他２会場）	菊池　四郎 加藤　雅信
第６回	昭和52.6.24（金） 25（土）	岡山県 （岡山市）	「ゆとりある教育の中の特別活動」～教師と生徒のふれ合いを求めて～ （岡山市民文化ホール、中央公民館）	菊池　四郎 串田　吉雄
第７回	昭和53.6.2（金） 3（土）	茨城県 （下妻市）	「いきがいと充実感あふれる中学生を育てる特別活動」 （下妻市立下妻中学校）	菊池　四郎 広瀬　一徳
第８回	昭和54.8.3（金） 4（土）	香川県 （高松市）	「自ら考え正しく判断・行動できる生徒の育成をめざす特別活動」 （高松市民会館、他４会場）	岩亀　幸三郎 谷本　義男
第９回	昭和55.6.20（金） 21（土）	東京都 （中野区）	「新教育課程の趣旨を生かす特別活動」 （中野区立公会堂、東京都立教育研究所）	田代　拳 神戸　恭三郎
第10回	昭和56.8.7（金） 8（土）	兵庫県 （神戸市）	「ゆたかな人間性の育成を目ざす新しい特別活動」～ゆとりと充実の実践課題～ （神戸文化ホール、他８会場	田代　拳 河野　広雄
第11回	昭和57.8.6（金） 7（土）	千葉県 （千葉市）	「ゆたかな人間性の育成をめざす特別活動」～ゆとりと充実の創造と実践～ （千葉県教育会館、他５会場）	田代　拳 菅崎　栄
第12回	昭和58.9.29（木） 30（金）	福島県 （福島市）	「生徒の自主的・自治的活動を定着させる特別活動 ～一人歩きのできる生徒の育成をめざして～ （福島市立福島第四中学校、大鳥中学校、吾妻中学校、福島市民センター）	田代　拳 橋谷田千代士
第13回	昭和59.8.9（木） 10（金）	静岡県 （静岡市）	「一人ひとりに充実感を生み出す特別活動」 （静岡市民文化会館、他５会場）	神戸　恭三郎 土屋　伊佐雄 加藤　清
第14回	昭和60.8.7（水） 8（木）	東京都 （渋谷区）	「生徒の自己教育力を高める特別活動」 （国立オリンピック記念青少年総合センター）	横尾　武成 両角　敏彦 原口　盛次
第15回	昭和61.11.13（木） 14（金）	東京都 （中野区）	「生徒の学校生活を活性化する特別活動」 （中野文化センター、豊島区立高田中学校、中野区勤労福祉会館）	横尾　武成 原口　盛次
第16回	昭和62.8.7（金） 8（土）	千葉県 （千葉市）	「生徒の自主性を高める特別活動」 （千葉県教育会館、千葉県自治会館、公立学校共済組合青雲閣）	原口　盛次 細谷　竹松
第17回	昭和63.8.9（火） 10（水）	徳島県 （鳴門市）	「生徒の創造を生かし、一人ひとりに充実感をもたせる特別活動」 （鳴門市文化会館、老人福祉センター、青少年育成センター、地場産業センター）	原口　盛次 廣岡　政吉
第18回	平成元.8.8（火） 9（水）	栃木県 （藤原町）	「一人一人を伸ばす特別活動」～より望ましい集団活動を通して～ （鬼怒川温泉あさやホテル）	槇　常三 武井　岩夫
第19回	平成2.10.18（木） 19（金）	新潟県 （両津市）	「主体的な集団活動をうながす特別活動のあり方」 （佐渡島開発総合センター、両津市立東中学校、南中学校）	槇　常三 渡辺　喜信
第20回	平成3.8.8（木） 9（金）	群馬県 （伊香保町）	「望ましい集団活動を通して、一人一人の生き方を育てる特別活動」 （伊香保温泉ホテル天坊）	鶴巻　武 松下　熙雄
第21回	平成4.10.30（木） 31（金）	埼玉県 （北本市）	「豊かな人間性を育む特別活動」～多様な体験活動の実践を通して～ （北本市文化センター、北本市立北本中学校）	鶴巻　武 布目　雅之
第22回	平成5.8.6（金） 7（土）	鹿児島県 （鹿児島市）	「望ましい集団活動を通して、主体的に生きる力を培う特別活動」 （鹿児島市民文化ホール、鹿児島サンロイヤルホテル）	山田　忠行 竹原　宏
第23回	平成6.8.18（木） 19（金）	和歌山県 （和歌山市）	「たくましい実践力を育てる特別活動」～人間としての生き方を求めて～ （和歌山県民文化会館、紀の国会館）	山田　忠行 久保　陽右

回	開催年月日	開催地	「主　題」 （会　場）	会長 実行委員長
第24回	平成7.8.7(月) 8(火)	東京都 （中野区）	「たくましく生きる意欲を育てる特別活動」 （なかのＺＥＲＯ）	山田　忠行 小松　博則
第25回	平成8.8.2(金) 3(土)	青森県 （弘前市）	「豊かな心を持ち、たくましく生きる力を育てる特別活動」 （弘前市民会館、弘前文化センター）	小松　博則 鈴木　弘
第26回	平成9.8.7(木) 8(金)	神奈川県 （横浜市）	「豊かな人間性を培い、主体的に生きる力を育てる特別活動」 （横浜市立横浜商業高等学校、パシフィコ横浜）	平松　隆 名塚　義明
第27回	平成10.8.7(金) 8(土)	広島県 （広島市）	「豊かな人間性をつちかい、生きる力をはぐくむ特別活動」 （広島県民文化センター、鯉城会館、広島国際会議場）	平松　隆 澤村　晴視
第28回	平成11.8.19(木) 20(金)	栃木県 （藤原町）	「生きる力をはぐくむ　あらたな特別活動を求めて」 （鬼怒川温泉グリーンパレス）	佐藤　真人 須藤　稔
第29回	平成12.8.3(木) 4(金)	熊本県 （熊本市）	「２１世紀を生きる力を育てる特別活動」 （メルパルクＫＵＭＡＭＯＴＯ）	佐藤　真人 坂井　豊水
第30回	平成13.8.2(木) 3(金)	東京都 （中野区）	「２１世紀を拓く特別活動」　～共に考え、共に歩む～ （なかのＺＥＲＯ）	佐藤　真人 保積　芳美
第31回	平成14.8.7(水)	鹿児島県 （鹿児島市）	「豊かなかかわり合いを通して、共に生きる力を育てる特別活動」 （ホテルウエルビューかごしま）	保積　芳美 山下　雄平
第32回	平成15.7.30(木) 31(金)	愛媛県 （松山市）	「共生と創造を目指す特別活動の研究」 （松山市立子規記念博物館、にぎたつ会館、メルパルクＭＡＴＳＵＹＡＭＡ）	保積　芳美 芝　英徳
第33回	平成16.10.15(金) 16(土)	徳島県 （阿南市）	「望ましい集団活動を通して、生きる力を育てる特別活動」 （阿南中学校、阿南市文化会館）	保積　芳美 萩原　宏昭
第34回	平成17.8.3(木) 4(金)	東京都 （中野区）	「望ましい集団活動の活性化を通して、生きる力を育てる特別活動」 ～社会的な資質の育成を中心にして～ （中野区教育センター、中野区立中央中学校）	保積　芳美 加々美　肇
第35回	平成18.10. 27(金) 28(土)	青森県 （弘前市）	「出会おう新しい自分、生きよう自分らしく」 ～豊かな心を持ち、たくましく生きる力を育てる特別活動～ （弘前市立東中学校、弘前市文化センター）	加々美　肇 山科　實
第36回	平成19.7.31(火)	東京都 （中野区）	「豊かな人間関係づくりを通して、生きる力を育む特別活動」 ～学校と家庭・地域を結ぶ特別活動～　（なかのＺＥＲＯ）	加々美　肇 坂井　晃
第37回	平成20.8.6(水)	群馬県 （前橋市）	「未来を拓く人間力を培う特別活動」 ～望ましい集団活動・豊かな人間関係づくりを通して～　（前橋テルサ）	加々美　肇 尾身　正治
第38回	平成21.10. 16(金) 17(土)	東京都 （江東区）	「望ましい人間関係を形成する新たな特別活動の展開」 （江東区立深川第八中学校、江東区教育センター）	坂井　晃 美谷島　正義
第39回	平成22.10. 29(金)	青森県 （五所川原市）	「触れ合いの中で発見しよう　輝く自分　響き合う仲間」 ～新しい時代を切り拓く特別活動～　（五所川原市立五所川原第一中学校）	坂井　晃 永澤　正己
第40回	平成24.1. 28(土)	東京都 （文京区）	「助け合い　励まし合う　仲間づくり」 ～望ましい人間関係の形成と集団や社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成～ （東京都教職員研修センター）	佐々木　辰彦 （代行） 松本　康夫
第41回	平成24.12. 1(土)	東京都 （文京区）	「認め合い　高め合う　仲間づくり」 ～社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成～　（東京都教職員研修センター）	佐々木　辰彦 勝亦　章行
第42回	平成25.8.8(木)	大分県 （別府市）	「よりよき人間関係を築き、望ましい集団活動を通して生きる力をはぐくむ特別活動」 ～話合い活動の充実による自治能力の育成～　（立命館アジア太平洋大学）	勝亦　章行 児玉　徳信
第43回	平成26.10. 30（木）31（金）	愛媛県 （松山市）	「絆を深め、たくましく生きる力を育む特別活動の創造」 ～より良い生活や人間関係を築く集団活動の実践を通して～　（松山市立桑原中学校）	勝亦　章行 武田　峰紀
第44回	平成27.10.2(金) 3(土)	神奈川県 （横須賀市）	「自主的、実践的な態度と想像力を育む特別活動を目指して」 ～よりよい人間関係を育成する中で～ （ヨコスカベイサイドポケット産業交流プラザ・総合福祉会館）	松本　康夫 守谷　賢二
第45回	平成28.11.19(土)	東京都 （墨田区）	「認め合い　支え合い　高め合う　仲間づくり」 ～これからの社会を生き抜く資質・能力の育成を目指す特別活動～ （墨田区立本所中学校）	松本　康夫 長谷川　晋也

全日本中学校特別活動研究会　会則

第１章　　総　則

第１条　本会は、全日本中学校特別活動研究会と称し、事務局は会長校内におく。

第２条　本会は、全国の特別活動研究者をもって組織し、特別活動に関する重要問題を取り上げて協議し、わが国中学校特別活動教育推進と発展に寄与することを目的とする。

第３条　本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

一　全日本中学校特別活動研究大会の開催

二　各都道府県における中学校特別活動研究協議会・研究会・講習会・座談会等の主催協力・連絡

三　各都道府県の中学校特別活動研究団体との交流・連絡

四　機関誌・機関新聞・紀要等の刊行

五　その他関係機関との連携及び必要な事業

第４条　本会の会員は次のものによって構成する。

一　全国の都道府県の特別活動研究会の会員

二　その他、本会の主旨に賛同する者

第２章　　役　員

第５条　本会は次の役員をおく。

一　会　　長　　１名　　二　副会長　　若干名　　三　事務局長　　１名

四　全国理事

第６条　会長は理事会で選出し、任期は９条によるものとする。

第７条　理事は、参加研究団体の中からの推薦により会員の者から選出する。

副会長及び事務局長は、理事の中からまたは理事の推薦により会長が委嘱する。

第８条　役員の職務は、次の通りとする。

一　会長は本会を代表し、会務を総括する。

二　副会長は、会長を補佐し会長事故ある時は、その職務を代行する。

三　事務局長は、事務局を組織し、常時の会務運営を担当する。

四　理事は、理事会を構成し本会の企画・運営のための原案作成及び会務の審議決定をする。

第９条　本会の役員の任期は一年として、再任をさまたげない。補欠によって就任した役員の任期は前任者の残留任期とする。

第 10 条　本会は、名誉会長・顧問・参与をおくことができる。名誉会長・顧問・参与は本会の重要な会議に出席して意見を述べることができる。

第3章　執　行　機　関

第 11 条　本会の会務を統括し遂行するために事務局をおく。事務局には、事務局長のもとに、事務局員若干名をおく。

第 12 条　事務局には、次の部をおく。

一　庶務部　　二　会計部

各部には、部長・副部長ならびに部員若干名をおく。

第 13 条　各部の構成人員は、事務局員をもってこれに充て、会長が委嘱する。

第4章　会　議

第 14 条　理事会は、毎年一回開催し、会の重要事項について報告・審議する。その他の会議は必要に応じて開くものとする。会議はすべて会長がこれを招集する。

第5章　会　計

第 15 条　本会の会費は、次の収入をもってこれにあてる。

一　会費　　二　寄付金　　三　助成金　　四　その他の収入

会費は地区分担金費（都道府県年２　０，０００円）とする。会費は、理事会の議決で決める。

第 16 条　本会は、特に必要ある場合臨時会費を徴収することができる。

第 17 条　本会の予算及び決算は、予算書及び決算書を作成し、理事会で報告、審議及び承認を得るものとする。

第 18 条　本会の年度は、４月１目に始まり、翌年の３月３１日に終わる。

付　　則

１　本会の会則の変更は、理事会の議決によるものとする。

２　本会の運営については、細則をもうけることができる。

３　本会の会則は昭和 47 年 6 月 8 日から施行するものとする。

昭和 48 年 11 月　8 日改正

昭和 58 年　9 月 29 日改正

平成 14 年　7 月 30 日改正

平成 25 年　8 月　7 日改正

平成28年度　全日本中学校特別活動研究会　全国理事名簿

平成28年10月1日

会　長	松本　康夫	東村山市立東村山第二中学校	189-0003	東村山市久米川町２－４－１
副会長 (事務局長)	長谷川晋也	墨田区立本所中学校	130-0005	東京都墨田区東駒形３－１－１０

都道府県	氏名	学校名	〒番号	住所
北海道	加藤　佳栄	札幌市立稲穂中学校	006-0034	札幌市手稲区稲穂４条２－１８－１０
青森県	田中　慶一	弘前市立第一中学校	036-8021	弘前市和徳町３６３－１３
岩手県	樋下　照男	盛岡市立大宮中学校	020-0866	盛岡市本宮字大宮５－１
山形県	西田　昭一	最上町立最上中学校	999-6101	最上郡最上町大字向町７６０
福島県	仁平　光明	福島市立立子山中学校	960-1321	福島市立子山字大稲場２０
群馬県	中沢　　博	中之条町立六合中学校	377-1702	吾妻郡中之条町大字生須５４３－１
茨城県	大髙　美子	水戸市立常磐小学校	310-0044	水戸市西原１－３－１２
栃木県	出口　伸雄	足利市立西中学校	326-0846	足利市山下町２５３９番地
東京都	松本　康夫	東村山市立東村山第二中学校	189-0003	東村山市久米川町２－４－１
東京都	長谷川晋也	墨田区立本所中学校	130-0005	東京都墨田区東駒形３－１－１０
神奈川県	小泉　勉	相模原市立相武台中学校	252-0325	相模原市南区新磯野５－１－１０
石川県	久保　孝嗣	小松市立丸内中学校	923-0806	小松市小寺町甲２７
福井県	柴田　顕光	福井市立美山中学校	910-2351	福井市美山町９－１４
岐阜県	西部　巧	瑞穂市立穂積中学校	501-0222	瑞穂市別府１８８８番地
滋賀県	安土　憲彦	栗東市立栗東中学校	520-3015	栗東市安養寺六丁目6番15号
大阪府	松田　忠喜	東大阪市立藤戸小学校	577-0017	東大阪市藤戸新田１－３－４５
兵庫県	中村喜代久	神戸市立東落合中学校	654-0152	神戸市須磨区東落合2丁目15-1
奈良県	本多　敏人	王寺町立王寺南中学校	636-0021	北葛城郡王寺町畠田９－１７０３
和歌山県	西川　彰彦	和歌山市立明和中学校	641-0012	和歌山市紀三井寺８３２－１
岡山県	三上　政誉志	岡山市立福浜中学校	702-8036	岡山市南区三浜町２－３－２６
広島県	胃甲　　登	福山市立東朋中学校	721-0913	福山市幕山台７－２４－１
山口県	守山　敏晴	柳井市立柳井中学校	742-0021	柳井市柳井４１５５
鳥取県	井上　昭	大山町立中山中学校	689-3112	西伯郡大山町下甲９５１－１
島根県	渋谷　憲朗	益田市立高津中学校	698-0041	益田市高津３－１４－１
香川県	細川　昌弘	さぬき市立さぬき南中学校	761-0901	さぬき市大川町冨田西2823番地１
徳島県	三澤　利夫	阿南市立那賀川中学校	779-1235	阿南市那賀川町苅屋３７０－１
愛媛県	越智　裕子	松山市立石井小学校	790-0932	松山市東石井６－８－５２
福岡県	中村　ゆみ	福岡市立箱崎清松中学校	812-0064	福岡市東区松田２－３－１
佐賀県	中野　義文	佐賀市立城東中学校	840-0008	佐賀市巨勢町大字牛島242番地
長崎県	本多　洋二	南島原市立布津中学校	859-2112	南島原市布津町乙１６５３
熊本県	豊田　浩之	熊本市立河内中学校	861-5347	熊本市西区河内町船津2470番地１
大分県	皆見　秀樹	大分市立吉野中学校	879-7871	大分市大字辻８１２番地
鹿児島県	小濱　義智	鹿児島市立吉野東中学校	892-0871	鹿児島市吉野町５００３
宮崎県	上村　幸広	宮崎市立清武中学校	889-1620	宮崎市清武町今泉甲６９８０
沖縄県	友寄　隆央	金武町立金武中学校	904-1201	金武町字金武３４８６番地

第45回 全日本中学校特別活動研究会大会 実行委員会名簿

	運営役職	氏　名	勤　務　校	職　名
全国会長		松本　康夫	東村山市立東村山第二中学校	校　長
実行委員長		長谷川晋也	墨田区立本所中学校	校　長
事務局長		荒巻　　淳	江戸川区立松江第一中学校	副校長
副実行委員長	総務部顧問	弓田　　豊	中野区立第十中学校	校　長
副実行委員長	紀要部顧問	勝亦　章行	練馬区立関中学校	校　長
副実行委員長	研究部顧問	青木由美子	東村山市教育委員会指導室	指導室長
副実行委員長	運営部顧問	齋藤　　実	武蔵村山市立小中一貫校村山学園	校　長
総務部	部長	植木　俊孝	小金井市立小金井第一中学校	副校長
	副部長	室井　裕勝	江東区立有明中学校	主幹教諭
	顧問	弓田　　豊	中野区立第十中学校	校　長
会計部	部長	上岡　祥邦	足立区立六月中学校	校　長
運営部	部長	谷口　典夫	狛江市立狛江第一中学校	主任教諭
	副部長	西川　由哲	墨田区立吾嬬第二中学校	副校長
	副部長	三橋　秋彦	墨田区立本所中学校	副校長
		田爪　一浩	東大和市立第一中学校	副校長
		酒井　寛子	足立区立第十四中学校	教　諭
		有川　直志	足立区立新田中学校	教　諭
		猪越　孝一	台東区立駒形中学校	主幹教諭
	顧問	齋藤　　実	武蔵村山市立小中一貫校村山学園	校　長
研究部	部長	吉川　滋之	東村山市立東村山第五中学校	主任教諭
	副部長	瀬戸　完一	葛飾区立新小岩中学校	主幹教諭
		藤本謙一郎	練馬区立石神井東中学校	主幹教諭
		大塚　隆弘	江東区立深川第一中学校	主任教諭
		原　奈都子	江戸川区立小松川第二中学校	主幹教諭
	顧問	青木由美子	東村山市教育委員会	指導室長
編集部	部長	滝沢二三雄	江戸川区立南葛西中学校	副校長
		鹿野天一朗	足立区立第十中学校	教　諭
		村田　淳悟	江東区立深川第五中学校	教　諭
		工藤　　歩	江東区立深川第六中学校	教　諭
	顧問	勝亦　章行	練馬区立関中学校	校　長
監事	会計監査	山田　正隆	足立区東綾瀬中学校	校　長
	会計監査	大熊　恵子	練馬区立豊玉第二中学校	副校長
相談役		加々美　肇	江東区教育センター	
		佐々木辰彦	東大和市教育委員会	
当日の運営補助		大橋　えり	墨田区立本所中学校	教　諭
		中林　未来	墨田区立本所中学校	教　諭
		橋本　依恵	江戸川区立南葛西中学校	教　諭
		森本　貫介	江戸川区立南葛西中学校	教　諭
		長山　直樹	江戸川区立松江第一中学校	教　諭
		井村　友里	中央区立晴海中学校	教　諭
		伊木　文枝	東村山市立東村山第三中学校萩山分校	教　諭
		奥田　恭子	西東京市立青嵐中学校	教　諭

平成２８年度
第４５回全日本中学校特別活動研究会・東京大会誌

編集・発行　平成２８年１１月１９日
東京都中学校特別活動研究会
墨田区立本所中学校
TEL　03-3625-0355
印　　刷　プリンティングイン株式会社
TEL　0422-54-0051(代)